

香川県埋蔵文化財調査年報

平成 11 年度

2001.3

香川県教育委員会

例 言

1. 本書は、県内における平成11年度の埋蔵文化財保護行政及び発掘調査の概要集である。
2. 発掘調査結果の概要を掲載した遺跡の位置は各遺跡ごとに示し、文化財保護法に関する届出等については一覧表に示した。
3. 本書頁は通し番号としたが、挿図・図版番号は遺跡ごとに付した。
4. 遺跡の配列は、県教委主体の調査、市町教委主体の調査の順とした。配列はそれぞれ原則として西から東の地域への順とした。
5. 各遺跡の位置については、国土地理院発行の25,000分の1地形図を使用した。
6. 各遺跡の編集は執筆者が行い、全体編集を文化行政課がおこなった。

目 次

1. 平成11年度埋蔵文化財保護の動向	1
2. 平成11年度埋蔵文化財保護行政、調査の状況	4
文化財保護法に関する届出等	
I 遺跡発見の届出・通知（57条の5・6）	4
II 埋蔵文化財発掘の届出・通知（57条の2・3）	4
III 埋蔵文化財発掘調査の届出（57条）	6
IV 埋蔵文化財発掘調査の報告（98条の2）	8
V 開発事業に伴う埋蔵文化財試掘調査	14
VI 埋蔵文化財現地踏査・立会調査の概況	16
発掘調査の概況	
(1) 大麻加嶺古墳	22
(2) 見立遺跡	23
(3) 旧練兵場遺跡	24
(4) 五条遺跡	25
(5) 十楽寺跡	26
(6) 西山下池古墳	27
(7) 向原遺跡	28
(8) 関ノ池遺跡	29
(9) 道味遺跡	30
(10) 丸山古墳	31
(11) 宗吉窯跡	32
(12) 堂ヶ鼻古墳群	34
(13) 北鶴Ⅰ・Ⅱ遺跡	35
(14) 野田院古墳	36
(15) 旧練兵場遺跡	37
(16) 史跡丸亀城跡	38
(17) 田村廃寺（田村遺跡）	39
(18) 垂水妙見遺跡	40
(19) 向原遺跡	41
(20) 田所深池窯跡	42
(21) 鶴ヶ峯古墳	43
(22) 讀岐国府跡（開法寺遺跡）	44
(23) 讀岐国府跡	45
(24) 横立山経塚古墳	46
(25) 香西南西打遣跡	47
(26) 史跡高松城跡地久櫛台	48
(27) 東中筋遺跡	49
(28) 木太中村遺跡	50
(29) 宗高坊城遺跡	51
(30) 林下所遺跡	52
(31) 宮西・一角遺跡	53
(32) 由良南原遺跡	54
(33) 大空北遺跡	55
(34) 奥の坊遺跡	56
(35) 史跡天然記念物屋島	57
(36) 龍満城跡	59
(37) 花池尻中遺跡	60
(38) 楠木地区	61
(39) 道味遺跡	62
(40) 岩崎山古墳群	63
(41) 成重遺跡	64
3. 平成11年度財団法人香川県埋蔵文化財調査センターの発掘調査概況	
(1) 県事業に伴う調査状況	65
(2) 県道・河川事業に伴う調査状況	66
(3) 横断道事業に伴う調査状況	67
(4) 国事業に伴う調査状況	70

1. 平成11年度埋蔵文化財保護行政の動向

1.はじめに

香川県教育委員会では、平成10年度に引き続き、国及び県の各種開発事業の予定地の試掘調査を国庫補助事業等で実施するとともに小規模な事前の発掘調査を実施した。県教育委員会が実施した試掘調査は22件、事前の発掘調査は3件あるが、ほかに専門職員の配置されていない町において、県教育委員会の指導のもと実施した調査が1件ある。

また、大規模な発掘調査とこれに伴う整理作業については、(財)香川県埋蔵文化財調査センターに委託し、合計27遺跡・3地区で約68,570㎡の発掘調査を実施するとともに、過去に発掘調査を受託した遺跡のうち、15遺跡の整理作業と9遺跡の報告書印刷を行った。

市町においては県下全体で28件の試掘調査を実施した。また、発掘調査については、開発事業に伴う事前調査があわせて22件ある。

また、「地方分権の推進を図るための関係法律の整備等に関する法律」(地方分権一括法)により、文化財保護法の改正が行われた。これに伴い県の事務処理に関する条例を改正し、規則を定めた。加えて「開発事業等に伴う埋蔵文化財(遺跡)の取扱い要綱」を定めた。

2. 埋蔵文化財保護体制の整備

香川県の埋蔵文化財保護体制は、県教育委員会の埋蔵文化財担当職員4名(専門職員3名、教員1名)、(財)香川県埋蔵文化財調査センターの調査担当職員32名(専門職員18名、教員14名)の合計36名である。平成10年度に比べて8名の減員になっているが、これは四国横断自動車道(高松市内区间・津田~引田間)の調査がピークを越えたためである。また、市町の埋蔵文化財専門職員については、綾南町で1名、豊中町で1名がそれぞれ職員の異動等に伴い減員となっている。県下全体では5市6町に配置されていることになる。これに大川郡内8町を担当する大川地区広域行政振興整備事務組合を含めると、市町の埋蔵文化財専門職員の配置率は42%で、平成10年度に比べて4%の減少となっている。県内では大規模な道路交通網が整備されつつあるが、これに伴い市町においては各種開発事業の増加が見込まれる。したがって市町が独自で埋蔵文化財包蔵地の確認と周知を行うとともに、開発事業の早期把握に努め事業者との調整を計る必要がある。このことは地方分権に伴いより重要となろう。したがって市町においては人的措置を含め適切な埋蔵文化財保護体制の確立に努めることが急務である。

県内の埋蔵文化財専門職員の配置状況

香川県	36名	名観音寺市	1名	高瀬町	1名
高松市	4名	寒川町	1名	三野町	1名
丸亀市	1名	三木町	1名	大川広域	2名
坂出市	1名	国分寺町	1名		
善通寺市	1名	多度津町	1名	合計	52名

3. 開発事業の動向と発掘調査の状況

県下の新規の大規模開発事業は減少傾向にある。現在進行中の四国横断自動車道の工事はピークを迎え、これに伴う埋蔵文化財発掘調査はピークを越えている。また土地区画整備事業であるサンポート高松整備事業と共に伴う埋蔵文化財発掘調査は今年度がピークとなっている。新規の大規模事業としては県農業試験場移転整備があり今年度に基本設計を実施している。これによると事業面積は18haと広大で埋蔵文化財が所在する可能性が高いことから、今後この取扱いについて充分に協議する必要がある。また四国横断自動車道の高松西インターチェンジと高松空港を結ぶ地城高規格道についても事業が具体化し設計を実施中で、今後大規模な発掘調査が予想される。国道・県道・市町道についてもバイパスを中心に用地買収後に試掘調査を実施し、必要箇所について発掘調査を実施している。

これに対して、ほ場整備・農道整備・ため池改修などの小規模な開発が増加している。面積的には少ないが量的に増加しているため、埋蔵文化財保護に関する事務量も増加している。この傾向は今後も続くと予想され、また小規模開発や民間開発は事業の早期把握と事前の協議が重要となるので、特に市町埋蔵文化財保護の体制の充実が望まれる。

4. 史跡等の保存と活用

今年度は埋蔵文化財関係の国・県の史跡や重要文化財等の指定はなかった。しかし継続して普通寺市の史跡有岡古墳群（野田院古墳）、丸亀市の史跡丸亀城跡、高松市の史跡高松城跡（地久櫓跡）の保存修理と共に伴い一部発掘調査を国庫補助事業として実施した。加えて三野町の史跡宗吉窯跡では史跡整備を前提とした確認調査を行っている。

史跡有岡古墳群（野田院古墳）は昨年度に引き続き、整備のための基礎資料を得るために確認調査を行った。今年度はくびれ部を中心とした調査を行い、後円部の構造をより明瞭にすることが出来た。

史跡丸亀城跡は昨年度から継続で三の丸東石垣の解体修理を行った。

史跡高松城跡では今年度から8年計画で地久櫓の石垣の解体修理を実施している。これに伴い櫓の発掘調査を実施したが、櫓上面の最終形成時期が江戸時代後期～明治時代であったことが判明したとともに、内側に平坦面を揃えた石列を検出した。

史跡宗吉窯跡では今年度新たに6基の窯跡が見つかり合計23基となった。また昨年度に検出した最大級の17号窯跡の灰原部分の確認調査も実施した。

5. 発掘調査の成果

旧石器時代では国分台の南東の平野部に位置する高松市香西南西打遣跡で、ナイフ形石器・横長剥片・横長剥片石核が出土している。接合資料も含まれ瀬戸内技法に近い剥片剥離技法で注目される。

縄文時代では三豊郡詫間町の須田・中尾瀬遺跡で旧河道から多量の後期の土器が出土とともに、ドングリを中心とした土坑を検出している。高松市前田東・中村遺跡、綾歌郡綾歌町池下遺跡でも旧河道から後期の土器が出土している。

弥生時代では、高松市宮西・一角遺跡で土坑から前期後半～中期前半の土器が出土している。高松市奥の坊遺跡では松菊里型住居を含む竪穴住居跡が多数検出され、中期前半を中心とした遺物が多量に出土している。大川郡白鳥町成重遺跡では昨年度までと同様に中期後半～後期の

堅穴住居跡・集石遺構が検出された。集石遺構には中央部に柱穴や立石を伴うものも検出された。大川郡大内町金毘羅山遺跡では丘陵上で後期～終末の土器棺墓・箱式石棺墓を検出した。大川郡白鳥町植端遺跡でも丘陵上から、等高線上に並ぶように土壙墓が23基検出されたのをはじめ、土器棺墓を8基検出した。また柱穴状の遺構から懸垂鏡として使用されたと考えられる内行花文鏡の鏡片が出土した。香川郡香南町岡清水遺跡は中期後半～後期の集落跡で、堅穴住居跡が15棟検出され、他地域からの搬入土器も出土している。

前期古墳ではいずれも積石の前方後円墳である善通寺市野田院古墳、高松市横立山経塚古墳が調査された。野田院古墳は史跡整備に伴う調査で、今年度はくびれ部を中心に調査を実施し、後円部の構造がさらに詳細に判明した。横立山経塚古墳は範囲確認を目的で実施したが、その結果全長33.5mで後円部は二段築成、前方部は細身でバチ形に開くことが判明した。くびれ部と後円部から円筒埴輪が出土している。大川郡白鳥町神越3号墳では割竹形木棺を納めたと考えられる粘土櫛を検出した。観音寺市丸山古墳は昨年度からの継続調査で、今年度は墳丘の範囲確認と石室の全体規模の確認を行った。その結果、直径約35mの円墳で葺石を伴うことが判明した。石室は4m×3.5mほどの方形に近い大型の石室で、割石・板石を小口積みにして持ち送りを行っており、肥後型石室に似た構造の横穴式石室と考えられる。

三豊郡三野町の史跡宗吉窯跡では今年度新たに6基の窯跡が確認され、合計23基となった。今後は報告書を作成し、整備に向かうことになる。坂出市の讃岐国府跡の南部地域で古代寺院の開法寺塔跡の北側に隣接する箇所で、開法寺に伴うと考えられる礎石建物が検出された。建物は3間×6間以上で、伽藍の主軸の延長上に位置しており、推定伽藍範囲の外側にあること、建物構造などから僧坊の可能性が高い。礎石建物は出土遺物から11～12世紀のものである。次年度以降、伽藍配置や規模の解明を目指して確認調査を継続する予定である。丸亀市田村遺跡では8世紀後半ごろの梵鐘鋳造遺構が検出された。この他に田村庵寺の北限を画する築地塀に伴う雨落ち溝も検出された。古代山城の高松市屋島城跡では南嶺外郭線の続きを確認したとともに、石組み遺構・礎石建物も検出した。

中世の集落跡は、高松市中森遺跡、高松市前田東・中村遺跡、大川郡大内町三殿出口遺跡、大川郡白鳥町成重遺跡、大川郡白鳥町善門池西遺跡、大川郡引田町込田石垣遺跡で調査された。このうち込田石垣遺跡では、四面庇掘立柱建物・瓦の使用・土壙墓など寺院的なものが想定できる。大川郡引田町天王谷遺跡では13～14世紀の瓦を焼成した半地下式ロストル平窯を2基検出している。

県教委では平成9年度から中世城館跡詳細分布調査を行っており、今年度は三豊郡～丸亀市の県西部で39城館跡の縦張り図を作成した。綾歌郡綾歌町～仲多度郡満濃町にかかる西長尾城跡は平成8年度以来、測量調査を継続しているが、今年度は西側の尾根で6段の連郭式郭列と連続堅堀を確認している。香川郡香川町龍満城跡では大部分は近世末の遺構であったが、一部に中世に遡る可能性のある土壁を検出した。

サンポート高松整備事業に伴い継続して調査を行っている高松城跡では、4列の石垣を検出した。これは屋敷地が海に面する部分で護岸として構築されたもので、江戸時代初期から明治時代初期にかけて内側から順に埋め立て、屋敷地を拡張していったことが判明した。この他、史跡高松城跡の石垣修理に伴い地久槽の調査が行われた。

2. 平成11年度 埋蔵文化財保護行政、調査の状況

文化財保護法に関する届出等

I 遺跡発見の通知・届出 (57条の5・6)

番号	位 置	原 因	発 見 者
1	綾歌郡国分寺町国分闇の池	農業関連	綾歌土地改良事務所 所長 兼間和行
2	綾歌郡綾歌町大字岡田上字西山	農業関連	綾歌土地改良事務所 所長 兼間和行
3	綾歌郡綾南町大字陶字西原上4702-3他	農業関連	綾歌土地改良事務所 所長 兼間和行
4	大川郡寒川町石田西字道味3450-5~3431 -2	農業関連	大川土地改良事務所長
5	大川郡寒川町石田西字道味3431	農業関連	大川郡寒川町土地改良区 理事長 廣瀬正美

II 埋蔵文化財発掘の届出・通知 (57条の2・3)

番号	遺跡の名称	遺 跡 の 所 在 地	遺跡の種類	遺跡の時代	香川県文書番号
1	中の池遺跡	丸亀市金倉町道上968番地外	集 落 跡	弥生	11教文発第15-1号
2	盛土山古墳	仲多度郡多度津町奥白方110-1、118-1番地	古 墳	古墳	11教文発第15-2号
3	高松城跡	高松市西の丸町、浜の町	城 館 跡	近世	11教文発第15-3号
4	田村廃寺	丸亀市田村町字道東1745-1番地	社 寺 跡	奈良、平安	11教文発第15-4号
5	岡清水遺跡	香川郡香南町大字岡字清水34-1番地外	集 落 跡	弥生	11教文発第15-5号
6	小塚遺跡	仲多度郡多度津町葛原	集 落 跡	弥生、平安	11教文発第15-6号
7	多肥宮尻遺跡	高松市多肥上町1487-1番地外	集 落 跡	弥生、奈良	11教文発第15-7号
8	香西南西打遣跡	高松市香西南町地内	集 落 跡	弥生、平安、中世	11教文発第15-8号
9	木太中村遺跡	高松市木太町1669-1番地外	集 落 跡	弥生、中世	11教文発第15-9号
10	原間遺跡	大川郡大内町川東1289-1番地外	集 落 跡	弥生	11教文発第15-10号
11	旧練兵場遺跡	善通寺市仙遊町1丁目3番1号	集 落 跡	弥生、古墳	11教文発第15-11号
12	田畠1号塚・2号塚	綾歌郡綾南町萱原556-2、543	その他の墓	中世	11教文発第15-12号
13	領田・中尾垂遺跡、尾の上遺跡、本村中通跡	三豊郡都窓間町詫問字中尾瀬5214番地外	集 落 跡	绳文、弥生、中世	11教文発第15-13号
14	西久保谷遺跡	三豊郡三野町大字大見字塔の本甲6905、字西谷甲7069番地外	集 落 跡	弥生、中世	11教文発第15-14号
15	旧練兵場遺跡	善通寺市仙遊町1丁目3番1号	集 落 跡	弥生、古墳	11教文発第15-15号
16	讃岐国府跡	坂出市府中町5103-3、5104-2	官 衛 跡	奈良~中世	11教文発第15-16号
17	中東遺跡	仲多度郡多度津町奥白方1311番地外	集落跡・古墳	古墳、中世	11教文発第15-17号
18	深池窯跡	綾歌郡綾南町大字陶字田所6814番地	生 産 遺 跡	平安	11教文発第15-18号
19	田村遺跡	丸亀市田村町1745-1番地外	集落跡・社寺跡	弥生、奈良、平安	11教文発第15-19号
20	川津六反地遺跡	坂出市川津町2919-6番地	集 落 跡	弥生、中世	11教文発第15-20号

発見日	遺跡の種類	遺跡の時代	指導内容	香川県文書番号・日付
平成11年10月22日	散布地	古代～中世	工事立会	11教文発第16-1号 平成11年11月12日
平成11年11月8日	古墳	古墳	発掘調査	11教文発第16-2号 平成11年11月22日
平成12年1月31日	集落跡	弥生	慎重工事	11教文発第16-3号 平成12年3月8日
平成12年2月4日	集落跡	弥生	慎重工事	11教文発第16-4号 平成12年3月31日
平成12年2月10日	集落跡	弥生	発掘調査	11教文発第16-5号 平成12年3月31日

事業目的	事業主体	事業面積	事業期間	指導内容
公園造成	丸亀市	6,400m ²	11・3・23～11・3・31	工事立会
農業関連	個人	70m ²	11・5・12～11・6・30	工事立会
土地区画整理道路	香川県	6,800m ²	11・4・1～15・3・31	発掘調査
銀行支店建設	㈱百十四銀行	2,533m ²	未定	発掘調査
道路	香川県	5,600m ²	未定	発掘調査
道路	建設省	820m ²	11・5・1～12・3・31	発掘調査
道路	香川県	4,000m ²	11・10・1～12・3・31	発掘調査
道路	高松市	480m ²	11・5・6～12・3・31	発掘調査
道路	高松市	1,700m ²	11・5・1～11・12・31	発掘調査
道路	香川県	1,009m ²	11・6・1～12・3・31	発掘調査
農業関連	四国農業試験場	2,000m ²	11・8・1～12・3・31	工事立会
農業関連	個人	12m ²	11・6・7～11・6・8	発掘調査
道路	香川県	5,000m ²	11・6・1～12・3・31	発掘調査
道路	香川県	2,400m ²	12・6・1～13・3・31	発掘調査
農業関連	四国農業試験場	5,000m ²	11・7・30～12・1・20	工事立会
個人住宅	個人	263m ²	11・9・16～12・2・28	工事立会
道路	香川県	900m ²	11・9・1～12・3・31	発掘調査
農業関連	香川県	12,000m ²	11・10・25～12・3・31	発掘調査
道路	香川県	500m ²	11・11・1～12・3・31	発掘調査
道路	香川県	100m ²	11・6・15～11・12・24	発掘調査

番号	遺跡の名称	遺跡の所在地	遺跡の種類	遺跡の時代	香川県文書番号
21	旧練兵場遺跡	善通寺市仙遊町2丁目3-32	集落跡	弥生、古墳	11教文発第15-21号
22	仁池遺跡	綾歌郡飯山町上法軍寺	散布地	旧石器、弥生	11教文発第15-22号
23	栗熊東遺跡	綾歌郡綾歌町栗熊東1548-1 外	散布地	奈良、平安	11教文発第15-23号
24	川津六反地遺跡	坂出市川津町2848-4番地外	集落跡	弥生、中世	11教文発第15-24号
25	東中筋遺跡	高松市桜町2丁目769-1外	集落跡	弥生、古墳	11教文発第15-25号
26	龍満城跡	香川郡香川町大字川東下字西立瀬1442	城館跡	中世、近世	11教文発第15-26号
27	讃岐国府跡	坂出市府中町5105-2	官衙跡	奈良～中世	11教文発第15-27号
28	讃岐国府跡	坂出市府中町字本村上所5061-2	官衙跡	奈良～中世	11教文発第15-28号
29	讃岐国府跡	坂出市府中町字本村池尻5085-5093	官衙跡	奈良～中世	11教文発第15-29号
30	林下所遺跡	高松市林町字下所2090-5	集落跡	弥生、平安	11教文発第15-30号
31	川津六反地遺跡	坂出市川津町2922-1、2922-2	集落跡	弥生、中世	11教文発第15-31号
32	旧練兵場遺跡	善通寺市仙遊町2丁目	集落跡	弥生、古墳	11教文発第15-32号
33	タンベ池遺跡	坂出市青海町	散布地	旧石器	11教文発第15-33号
34	花池尻北遺跡	大川郡志度町志度2569番地外	集落跡	中世	11教文発第15-34号
35	小僧遺跡	大川郡大内町川東字小僧844番地外	集落跡	弥生、中世	11教文発第15-35号
36	五条遺跡	善通寺市五条町	集落跡	弥生	11教文発第15-36号
37	農学部遺跡	木田郡三木町大字池戸2393番地外	集落跡	弥生、中世	11教文発第15-37号
38	宮西一角遺跡	高松市林町地内	集落跡	弥生、奈良	11教文発第15-38号
39	成重遺跡	大川郡白鳥町白鳥2163-3番地外	集落跡・その他の墓	弥生、古墳、中世	11教文発第15-39号
40	向原遺跡	綾歌郡綾南町人字陶字向原5056-1番地外	集落跡	弥生、中世	11教文発第15-40号
41	向原遺跡	綾歌郡綾南町大字陶字向原5588番地外	集落跡	弥生	11教文発第15-41号
42	上林遺跡	高松市上林町53番地外	集落跡	弥生、中世	11教文発第15-42号
43	十楽寺遺跡	綾歌郡宇多津町十楽寺中外	社寺跡	中世	11教文発第15-43号
44	花池尻中遺跡	大川郡志度町志度2447番地外	集落跡	奈良、中世	11教文発第15-44号

Ⅲ 埋蔵文化財発掘調査の届出（57条）

番号	遺跡の名称	遺跡の所在地	遺跡の種類	遺跡の時代	香川県文書番号
1	農学部遺跡	木田郡三木町大字池戸2393番地	集落跡	弥生、中世	11教文発第19-2号

事業目的	事業主体	事業面積	事業期間	指導内容
その他の建物	普通寺市	201m ²	11・10・6～12・3・31	発掘調査
農業関連	中・四農政局香川農地防災事業所	15,000m ²	11・10・1～12・3・31	工事立会
道路	綾南町	434m ²	11・10・8～12・3・31	発掘調査
道路	香川県	2,000m ²	12・4・1～12・11・30	発掘調査
道路	高松市	1,374m ²	11・10・1～12・1・31	発掘調査
農業関連	香川町南部土地改良区	28m ²	12・1・5～12・3・31	発掘調査
その他の建物	個人	426m ²	11・11・16～11・12・31	工事立会
個人住宅	個人	403m ²	12・1・10～12・5・10	工事立会
農業関連	個人	1,433m ²	11・11・8～11・11・30	工事立会
道路	高松市	308m ²	11・11・1～12・3・31	発掘調査
道路	香川県	100m ²	11・12・1～12・3・31	発掘調査
市営住宅	普通寺市	1,423m ²	12・12・1～14・3・31	発掘調査
公園造成	香川県	380m ²	12・2・10～12・3・31	工事立会
道路	香川県	1,500m ²	12・2・1～12・3・31	発掘調査
河川	香川県	1,620m ²	13・4・1～14・3・31	発掘調査
道路	香川県	500m ²	12・4・1～12・8・31	発掘調査
学校	香川大学	1,200m ²	12・6・1～13・3・20	発掘調査及び工事立会
道路	高松市	75m ²	12・2・15～12・3・31	発掘調査
道路	香川県	678m ²	11・12・1～12・3・31	発掘調査
農業関連	香川県	1,000m ²	11・6・8～12・3・28	慎重工事
道路	綾南町	500m ²	12・7・20～12・10・20	発掘調査
道路	香川県	8,000m ²	未定	発掘調査
農業関連	香川県	2,600m ²	12・2・17～12・12・16	工事立会
その他の建物	㈱フジ	39,738m ²	12・5・1～12・8・31	発掘調査

事業目的	調査主体	調査面積	調査期間	指導内容
香川大学施設建設	香川大学	1200m ²	12・3・1～12・9・30	慎重に発掘調査

IV 埋蔵文化財発掘調査の報告（98条の2）

番号	名 称	所 在 地	種 類	時 代	原 因	原 因 者
1	宗高坊城遺跡	高松市林町 1490-1外	集落跡	弥生、 中世	市道福岡林2号線建設事業	高 松 市
2	大空北遺跡	高松市高松町 962-1	集落跡	縄文、 弥生、奈良、 近世	高松市東部運動公園整備事業	高 松 市
3	如意輪寺窯跡	綾歌郡国分寺町国分 字中西	生産遺跡	平 安	公園整備事業	国 分 寺 町
4	奥の坊遺跡	高松市高松町 1331-1	集落跡	弥生、 奈良	高松市東部運動公園整備事業	高 松 市
5	田畠1号塚・2号塚	綾歌郡綾南町萱原 543、556-2	その他の墓	中 世	農業関連事業	個 人
6	香西南西打遣跡	高松市香西南町地内	集落跡	平安、 中世	市道香西東臨港線道路改良事業	高 松 市
7	小塚遺跡	仲多度郡多度津町葛原 1977外	集落跡	弥 生	国道11号坂丸バイパス建設事業	建 設 省
8	池下遺跡	綾歌郡綾歌町栗熊東 477-1	集落跡	縄文、 中世	国道32号綾歌バイパス建設事業	建 設 省
9	多肥宮尻遺跡	高松市多肥上町 1439-2外	散布地	弥生、古墳、 中世	県道太田上町志度線建設事業	香 川 県
10	原間遺跡	大川郡大内町川東原 間1344外	集落跡	弥生、古 墳、中世	県道大内白鳥インター線建設事業	香 川 県
11	岡清水遺跡	香川郡香南町岡字清水 37外	集落跡	弥 生	国道193号建設事業	香 川 県
12	須田・中尾瀬遺跡	三豊郡詫問町詫問 5377外	集落跡	縄文、 弥生、中世	県道紫雲出山線建設事業	香 川 県
13	尾の上遺跡	三豊郡詫問町詫問 5316-1外	集落跡	縄 文	県道紫雲出山線建設事業	香 川 県
14	前田東・中村遺跡	高松市前田東町中村 140外	集落跡	弥生～ 中世	四国横断自動車道（高松市内区間）建設事業	道 路 公 団
15	邊田石垣遺跡	大川郡引田町引田字 邊田11-2-1外	集落跡	中 世	四国横断自動車道（津田～引田間）建設事業	道 路 公 团
16	天王谷遺跡	大川郡引田町引田字 中山1699外	生産遺跡	中 世	四国横断自動車道（津田～引田間）建設事業	道 路 公 团
17	成重遺跡	大川郡白鳥町白鳥字 2044外	集落跡その他墓	弥生～ 近世	四国横断自動車道（津田～引田間）建設事業	道 路 公 团
18	三殿出口遺跡	大川郡大内町三殿 705外	散布地生 産 遺 跡	中世、 近世	四国横断自動車道（津田～引田間）建設事業	道 路 公 团
19	善門池西遺跡	大川郡白鳥町白鳥字 谷1084外	集落跡	中 世	四国横断自動車道（津田～引田間）建設事業	道 路 公 团

対処	調査主体	面積 (m ²)	調査期間	担当者	費用負担	調査後の措置等
事前調査	高松市教委	5,300	11. 3. 23 ～ 11. 10. 31	高松市教委 小川賢	高松市	工事実施
事前調査	高松市教委	2,000	11. 4. 12 ～ 11. 7. 31	高松市教委 大嶋和則	高松市	工事実施
事前調査	国分寺町教委	80	11. 3. 10 ～ 11. 5. 10	国分寺町教委 松本忠幸	国分寺町	現状保存
事前調査	高松市教委	800	11. 5. 31 ～ 11. 7. 31	高松市教委 大嶋和則	高松市	工事実施
事前調査	綾南町教委	30	11. 5. 31 ～ 11. 6. 2	片桐節子	綾南町	工事実施
事前調査	高松市教委	480	11. 5. 24 ～ 11. 6. 30	高松市教委 小川賢	高松市	工事実施
事前調査	香川県教委	820	11. 4. 1 ～ 11. 5. 31	鰐香川県埋蔵文化財 調査センター	建設省	工事実施
事前調査	香川県教委	7,669	11. 4. 1 ～ 11. 12. 31	鰐香川県埋蔵文化財 調査センター	建設省	工事実施
事前調査	香川県教委	3,050	11. 4. 1 ～ 11. 9. 30	鰐香川県埋蔵文化財 調査センター	香川県	工事実施
事前調査	香川県教委	1,009	11. 4. 1 ～ 11. 5. 31	鰐香川県埋蔵文化財 調査センター	香川県	工事実施
事前調査	香川県教委	5,600	11. 4. 1 ～ 11. 11. 30	鰐香川県埋蔵文化財 調査センター	香川県	工事実施
事前調査	香川県教委	2,639	11. 4. 1 ～ 11. 9. 30	鰐香川県埋蔵文化財 調査センター	香川県	工事実施
事前調査	香川県教委	494	11. 4. 1 ～ 11. 5. 31	鰐香川県埋蔵文化財 調査センター	香川県	工事実施
事前調査	香川県教委	1,900	11. 4. 1 ～ 11. 6. 30	鰐香川県埋蔵文化財 調査センター	建設省	工事実施
事前調査	香川県教委	2,300	11. 4. 1 ～ 11. 6. 30	鰐香川県埋蔵文化財 調査センター	道路公団	工事実施
事前調査	香川県教委	1,435	11. 7. 1 ～ 11. 8. 31	鰐香川県埋蔵文化財 調査センター	道路公団	工事実施
事前調査	香川県教委	4,192	11. 6. 1 ～ 12. 3. 31	鰐香川県埋蔵文化財 調査センター	道路公団	工事実施
事前調査	香川県教委	6,370	11. 4. 1 ～ 11. 6. 30	鰐香川県埋蔵文化財 調査センター	道路公団	工事実施
事前調査	香川県教委	1,050	11. 7. 1 ～ 11. 8. 31	鰐香川県埋蔵文化財 調査センター	道路公団	工事実施

番号	名 称	所 在 地	種 類	時 代	原 因	原 因 者
20	木太中村遺跡	高松市木太町 1669-1外	集 落 跡	弥生、古 墳、中世	都市計画道福岡三谷線建 設事業	高 松 市
21	横立山経塚古墳	高松市生島町 423-61	古 墳	古 墳	平成11年度埋蔵文化財国 庫補助事業	高 松 市
22	丸山古墳	觀音寺市室本町字西 丸山691	古 墳	古 墳	平成11年度埋蔵文化財国 庫補助事業	觀 音 寺 市
23	川津六反地遺跡	坂出市川津町六反地	集 落 跡	弥生、 中世	国道438号建設事業	香 川 県
24	六の坪遺跡	三豊郡豊中町本山甲	集 落 跡	中 世	県道羽方豊中線建設事業	香 川 県
25	八幡遺跡	高松市檀紙町 1587-1外	城 館 跡	中 世	四国横断自動車道（高松 市内区間）建設事業	道 路 公 団
26	樋端遺跡	大川郡白鳥町白鳥 3439番	古 墳・そ の他の墓	弥生、古 墳、中世	四国横断自動車道（津田 ～引田間）建設事業	道 路 公 团
27	谷遺跡	大川郡白鳥町白鳥 1147外	集 落 跡	中 世	四国横断自動車道（津田 ～引田間）建設事業	道 路 公 团
28	田村遺跡	丸龟市田村町 1745-1外	集落跡・ 生産遺跡	弥生、奈 良、近世	県道高松丸亀線建設事業	香 川 県
29	中東遺跡	仲多度郡多度津町奥 白方中東1311外	古 墳	古 墳	県道多度津丸亀線建設事 業	香 川 県
30	本村中遺跡	三豊郡詫間町詫間 3415外	集 落 跡	縄 文、 中世	県道紫雲出山線建設事業	香 川 県
31	西長尾城跡	綾歌郡綾歌町岡田上 2312-10外	城 館 跡	中 世	平成11年度埋蔵文化財国 庫補助事業	綾 歌 町
32	田村遺跡	丸龟市田村町 1745-1	社 寺 跡	奈 良、 平 安	百十四銀行支店建設事業	百十四銀行
33	東中筋遺跡	高松市桜町2丁目 769-1外	集 落 跡	弥生、古 墳、中世	都市計画道東浜港花ノ宮 線建設事業	高 松 市
34	旧練兵場遺跡	善通寺市仙遊町2丁 目3番32号	集 落 跡	弥生、古 墳、中世	老人ホーム建設事業	善 通 寺 市
35	奥の坊遺跡	高松市高松町1347外	集 落 跡	弥生～ 奈 良	高松市東部運動公園整備 事業	高 松 市
36	中の池遺跡	丸龟市金倉町 949-1外	集 落 跡	弥 生	丸龟市総合運動公園整備 事業	丸 龟 市
37	田所深池窯跡	綾歌郡綾南町大字陶 字田所6802-1	生 产 遗 蹤	平 安	県営ため池（深池）改修 事業	香 川 県
38	龍満城跡	香川郡香川町川東下 字西立満1442	城 館 跡	中 世、 近 世	農業用排水路改修事業	香川町南部 土地改良区

対 处	調査主体	面 積 (m ²)	調査期間	担 当 者	費用負担	調査後の措置等
事前調査	高松市教委	1,300	11. 5. 31 11. 8. 31	高松市教委 大嶋和則	高 松 市	工事実施
確認調査	高松市教委	84	11. 8. 17 11. 9. 17	高松市教委 山元敏裕	国・県・市	現状保存
確認調査	観音寺市教委	37	11. 9. 17 12. 3. 31	観音寺市教委 久保田昇三	国・県・市	現状保存
事前調査	香川県教委	30	11. 8. 17 11. 8. 17	文化行政課 塙崎誠司	香 川 県	工事実施
事前調査	香川県教委	100	11. 8. 26 11. 8. 26	文化行政課 塙崎誠司	香 川 県	工事実施
事前調査	香川県教委	2,727	11. 7. 1 11. 9. 30	鰐香川県埋蔵文化財 調査センター	道 路 公 団	工事実施
事前調査	香川県教委	1,647	11. 9. 1 11. 10. 31	鰐香川県埋蔵文化財 調査センター	道 路 公 団	工事実施
事前調査	香川県教委	2,741	11. 9. 1 11. 11. 30	鰐香川県埋蔵文化財 調査センター	道 路 公 団	工事実施
事前調査	香川県教委	650	11. 9. 1 11. 10. 31	鰐香川県埋蔵文化財 調査センター	香 川 県	工事実施
事前調査	香川県教委	848	11. 7. 1 11. 8. 31	鰐香川県埋蔵文化財 調査センター	香 川 県	工事実施
事前調査	香川県教委	540	11. 10. 1 11. 12. 24	鰐香川県埋蔵文化財 調査センター	香 川 県	工事実施
測量調査	綾歌町教委	5,000	11. 9. 1 12. 1. 31	綾歌町職員 近藤武司	国・県・市	現状保存
事前調査	丸亀市教委	640	11. 11. 15 12. 1. 31	丸亀市教委 東信男	百十四銀行	工事実施
事前調査	高松市教委	1,170	11. 11. 16 12. 1. 28	高松市教委 小川賢	高 松 市	工事実施
事前調査	普通寺市教委	201	11. 11. 4 11. 11. 19	普通寺市教委 笠川龍一	普通寺 市	工事実施
事前調査	高松市教委	2,300	11. 11. 10 12. 1. 31	高松市教委 大嶋和則	高 松 市	工事実施
事前調査	丸亀市教委	404	11. 10. 29 11. 11. 2	丸亀市教委 東信男	丸 亀 市	工事実施
事前調査	綾南町教委	100	11. 11. 25 11. 12. 30	松本考古学研究所 松本豊胤	香川県・綾南町	工事実施
事前調査	香川町教委	28	11. 11. 1 12. 3. 31	香川町教委 向井敏伸	香川町・事業者	工事実施

番号	名 称	所 在 地	種 類	時 代	原 因	原 因 者
39	仁池遺跡	綾歌郡飯山町上法軍寺	散 布 地	旧石器、弥 生	香川農地防災事業仁池改修事業	中國四國農政局
40	花池尻北遺跡	大川郡志度町志度2567外	集 落 跡	中 世	県道高松志度線建設事業	香 川 県
41	成重遺跡	大川郡白鳥町白鳥1180-1外	集落跡・その他の墓	弥生、中世	国道318号道路改良事業	香 川 県
42	川津六反地遺跡	板出市川津町2847外	集 落 跡	中 世	国道438号建設事業	香 川 県
43	中森遺跡	高松市櫻紙町中森1154-3外	集落跡・古墳	古墳、中世	四国横断自動車道(高松市内区間)建設事業	道路公团建設省
44	金毘羅山遺跡	大川郡大内町水主4794外	その他の墓	弥生、古墳、中世	四国横断自動車道(津田~引田間)建設事業	道路公团
45	男谷窯跡	三豊郡三野町下高瀬字原上3078	生産遺跡	白鳳時代	平成11年度埋蔵文化財国庫補助事業	三 野 町
46	香西南西打遣跡	高松市香西南町地内	集 落 跡	旧石器、平安、中世	市道香西東臨港線道路建設事業	高 松 市
47	林下所遺跡	高松市林町字下所2090-5	集 落 跡	弥生、平安	市道林町65号線道路建設事業	高 松 市
48	五条遺跡	普通寺市原田町1022外	集 落 跡	弥 生	県道普通寺府中線建設事業	香 川 県
49	宮西一角遺跡	高松市林町地内	集 落 跡	弥生、奈良	市道林町47号線道路建設事業	高 松 市
50	垂水妙見遺跡	丸亀市垂水町1613-1	集 落 跡	弥生、古墳	平成11年度埋蔵文化財国庫補助事業	丸 亀 市
51	堂ヶ鼻 1号墳・2号墳	三豊郡高瀬町上高瀬石潤4677-4外	古 墳	古 墳	平成11年度埋蔵文化財国庫補助事業	高 濱 町
52	道味遺跡	大川郡寒川町石田西字道味3431	集 落 跡	弥 生	基盤整備促進事業道味地区は場整備事業	寒 川 町
53	成重遺跡	大川郡白鳥町白鳥2100-2外	集落跡・その他の墓	弥生、中世	白鳥1号水路建設事業	白 鳥 町
54	成重遺跡	大川郡白鳥町白鳥2163-3外	集落跡・その他の墓	弥生、中世	国道318号道路改良事業	香 川 県
55	高松城跡	高松市西ノ丸町1外	城 館 跡	近 世	サンポート高松整備事業	香 川 県
56	小僧遺跡	大川郡大内町川東字小僧844外	散 布 地	绳文、弥生	古川改修事業	香 川 県
57	上林遺跡	高松市上林町385-34外	集 落 跡	中 世	県道中德三谷高松線建設事業	香 川 県

対 处	調査主体	面 積 (m ²)	調査期間	担 当 者	費用負担	調査後の措置等
事前調査	香川県教委	50	11. 9. 21 11. 10. 14	文化行政課 森格也	中國四國農政局	工事実施
事前調査	香川県教委	2,017	11. 10. 1 ～ 12. 1. 31	鈴香川県埋蔵文化財 調査センター	香 川 県	工事実施
事前調査	香川県教委	259	11. 11. 1 ～ 11. 12. 9	鈴香川県埋蔵文化財 調査センター	香 川 県	工事実施
事前調査	香川県教委	1,850	11. 12. 1 ～ 12. 3. 31	鈴香川県埋蔵文化財 調査センター	香 川 県	工事実施
事前調査	香川県教委	1,057	11. 10. 1 ～ 11. 12. 28	鈴香川県埋蔵文化財 調査センター	道路公団 建設者	工事実施
事前調査	香川県教委	1,300	11. 12. 1 ～ 12. 3. 31	鈴香川県埋蔵文化財 調査センター	道 路 公 团	工事実施
確認調査	三野町教委	40	11. 10. 12 ～ 11. 11. 2	三野町教委 白川雄一	国・県・市	現状保存
事前調査	高松市教委	240	11. 12. 13 ～ 12. 3. 31	高松市教委 小川賢	高 松 市	工事実施
事前調査	高松市教委	308	11. 12. 3 ～ 12. 3. 31	高松市教委 小川賢	高 松 市	工事実施
事前調査	香川県教委	500	12. 2. 8 ～ 12. 2. 22	文化行政課 塙崎誠司	香 川 県	工事実施
事前調査	高松市教委	75	12. 2. 17 ～ 12. 3. 31	高松市教委 川畠聰	高 松 市	工事実施
確認調査	丸亀市教委	50	12. 3. 6 ～ 12. 3. 22	丸亀市教委 東信男	国・県・市	現状保存
確認調査	高瀬町教委	14	12. 1. 26 ～ 12. 2. 29	高瀬町教委 佐柳真樹	国・県・市	現状保存
事前調査	寒川町教委	280	12. 2. 14 ～ 12. 2. 29	大川広城事務組合 阿河鏡二	寒 川 町	工事実施
事前調査	白鳥町教委	450	11. 7. 1 ～ 11. 12. 2	大川広城事務組合 阿河鏡二	白 鳥 町	工事実施
事前調査	香川県教委	230	11. 11. 12 ～ 12. 2. 28	文化行政課 森格也	香 川 県	工事実施
事前調査	香川県教委	9,732	11. 4. 1 ～ 12. 3. 31	鈴香川県埋蔵文化財 調査センター	香 川 県	工事実施
事前調査	香川県教委	1,611	12. 1. 5 ～ 12. 3. 31	鈴香川県埋蔵文化財 調査センター	香 川 県	工事実施
事前調査	香川県教委	695	12. 2. 1 ～ 12. 3. 31	鈴香川県埋蔵文化財 調査センター	香 川 県	工事実施

番号	名 称	所 在 地	種 類	時 代	原 因	原 因 者
58	浜の町遺跡	高松市錦町2丁目1	集 落 跡	中世、近世	サンポート高松整備事業	香 川 県

V 開発事業に伴う埋蔵文化財試掘調査

番号	名 称	所 在 地	原 因	原 因 者
1	花池尻地区	大川郡志度町志度	県道高松志度線建設事業	香 川 県
2	原間地区	大川郡大内町川東	県道大内白鳥インター線建設事業	香 川 県
3	六反地地区	坂出市川津町	国道438号建設事業	香 川 県
4	鶴ヶ峯古墳	坂出市加茂町鶴ノ口	土砂採取	民 間 企 業
5	宮西地区	大川郡長尾町造田宮西	寒川高校ゴルフ場建設	学 校 法 人 寒 川 高 校
6	横紙地区	高松市檀紙町	県道太田上町国分寺線建設事業	香 川 県
7	西久保谷遺跡	三農郡三野町大見字西久保谷	県道丸亀詫間豊浜線建設事業	香 川 県
8	富田中地区	大川郡大川町富田中	学校給食組合が食センター建設	学 校 給 食 組 合
9	小野地区	綾歌郡綾南町小野	国道32号綾南バイパス建設事業	建 設 省
10	伏石鹿腹遺跡	高松市伏石町	太田第2地区画整理事業	高 松 市
11	讃岐国府跡（開法寺遺跡）	坂出市府中町	個人住宅	個 人
12	田村地区	高松市田村町	たまも園建設事業	香 川 県
13	タヌキ塚	高松市前田東町	は場整備事業	個 人
14	本村地区	大川郡引田町坂元本村	は場整備事業	引 田 町
15	向原地区	綾歌郡綾南町陶	県営は場整備（綾南南部地区）事業	香 川 県
16	由良南原遺跡	高松市由良町	市営住宅建設	高 松 市
17	横立山経塚古墳	高松市生島町	祠建設	個 人
18	花池尻中遺跡	大川郡志度町志度字花池尻	大型店舗建設	民 間 企 業
19	駿山・宗極地区	大川郡引田町南野	は場整備事業	引 田 町
20	中戸・原地区	大川郡白鳥町白鳥字中戸・原	県営は場整備（白鳥上地区）事業	香 川 県
21	旧練兵場遺跡	普通寺市仙遊町	四国農業試験場施設建設事業	四 国 農 業 試 験 場
22	下代地区	丸亀市飯野町東二字下代	赤山川改修事業	香 川 県
23	上林地区	高松市上林町	県道中徳三谷高松線建設事業	香 川 県
24	春日・東山崎地区	高松市春日町・東山崎町	県道高松長尾大内線建設事業	香 川 県

対処	調査主体	面積 (m ²)	調査期間	担当者	費用負担	調査後の措置等
事前調査	香川県教委	357	12. 2. 15 12. 3. 31	鈴木香川県埋蔵文化財 調査センター	香川県	工事実施

調査主体	面積 (m ²)	調査期間	担当者	費用負担	調査の結果
香川県教委	90	11. 5. 13~11. 5. 14	文化行政課 森 格也	国・県	包蔵地確認 平成11年度事前調査
香川県教委	40	11. 5. 18	文化行政課 森 格也	香川県教委	包蔵地確認されず
香川県教委	120	11. 5. 18~11. 5. 20	文化行政課 塩崎 誠司	国・県	包蔵地確認 平成12年度事前調査
坂出市教委	64	11. 5. 20~11. 7. 19	坂出市教委 今井 和彦	国・県・市	包蔵地確認現状保存
長尾町教委	20	11. 5. 25~11. 5. 26	大川広域 阿河 銳二	長尾町	包蔵地確認されず
香川県教委	60	11. 5. 28	文化行政課 森 格也	香川県教委	包蔵地確認されず
香川県教委	70	11. 6. 2	文化行政課 塩崎 誠司	国・県	包蔵地確認事前調査
大川町教委	55	11. 6. 8	大川広域 阿河 銳二	大川町	包蔵地確認されず
香川県教委	250	11. 6. 8~11. 6. 9	文化行政課 西村 尋文	香川県教委	包蔵地確認されず
高松市教委	178	11. 7. 14~11. 7. 15	高松市教委 川畑 聰	国・県・市	包蔵地確認されず
坂出市教委	125	11. 7. 21~11. 9. 28	坂出市教委 今井 和彦	国・県・市	包蔵地確認盛土保存
香川県教委	100	11. 7. 23	文化行政課 塩崎 誠司	国・県	包蔵地確認されず
高松市教委	9	11. 8. 2~11. 8. 3	高松市教委 大嶋 和則	国・県・市	包蔵地確認されず
引田町教委	80	11. 8. 3~11. 8. 4	大川広域 萬木 一郎	引田町	包蔵地確認されず
香川県教委	280	11. 8. 10~11. 8. 11	文化行政課 塩崎 誠司	国・県	包蔵地確認盛土保存
高松市教委	130	11. 8. 17~11. 8. 23	高松市教委 川畑 聰	国・県・市	包蔵地確認 平成12年度事前調査予定
高松市教委	84	11. 8. 17~11. 12. 1	高松市教委 山元 敏裕	国・県・市	包蔵地確認 平成11年度事前調査
志度町教委	240	11. 9. 6~11. 9. 10	大川広域 阿河 銳二	志度町	包蔵地確認 平成12年度事前調査予定
引田町教委	84	11. 9. 14~11. 9. 28	大川広域 萬木 一郎	引田町	包蔵地確認されず
香川県教委	150	11. 9. 17	文化行政課 塩崎 誠司	国・県	包蔵地確認盛土保存
香川県教委	50	11. 9. 24	文化行政課 塩崎 誠司	国・県	包蔵地確認盛土保存 及び工事立会
香川県教委	80	11. 9. 27	文化行政課 塩崎 誠司	国・県	包蔵地確認されず
香川県教委	200	11. 9. 29~11. 9. 30	文化行政課 塩崎 誠司	国・県	包蔵地確認 平成12年度事前調査
香川県教委	200	11. 10. 6~11. 10. 8	文化行政課 森 格也	国・県	包蔵地確認されず

番号	名 称	所 在 地	原 因	原 因 者
25	中原地区	坂出市川津町中原	国道438号建設事業	香 川 県
26	上林地区	高松市上林町	県道中德三谷高松線建設事業	香 川 県
27	高野庵寺	高松市川島本町	薬師堂建設	個 人
28	東小川地区	綾歌郡飯山町東小川	県道岡田丸亀線建設事業	香 川 県
29	大谷地区	綾歌郡国分寺町新居字大谷	本津川改修事業	香 川 県
30	中の池遺跡	丸龜市金倉町	総合運動公園整備に係る調整池建設	丸 亀 市
31	中谷地区	大川郡津田町鶴羽字中谷	中谷南農道改良事業	津 田 町
32	東中筋遺跡	高松市桜町2丁目	都市計画道路東浜港花の宮線建設	高 松 市
33	深池窯跡	綾歌郡綾南町陶	県営は場整備(綾南南部地区)事業	香 川 県
34	林下所遺跡	高松市林町	市道建設	高 松 市
35	北条池地区	綾歌郡綾南町壹原	北条池改修事業	中 国 四 国 農 政 局
36	讃岐國府跡	坂出市府中町	個人住宅	個 人
37	日山山頂	高松市三谷町	展望台建設	三谷町観光協会
38	西久保谷・東久保谷地区	三豊郡三野町大見字西久保谷	県道丸亀詫間豊浜線建設事業	香 川 県
39	新田地区	丸龜市新田町	県道多度津丸亀線建設事業	香 川 県
40	志度地区	大川郡志度町志度	志度中学校体育館建設	志 度 町
41	岩崎山古墳群	大川郡津田町津田	携帯・自動車電話無線基地局建設	民 間 企 業
42	向原遺跡	綾歌郡綾南町大字陶	町道建設	綾 南 町
43	東山崎地区	高松市東山崎町	県道高松長尾大内線建設事業	香 川 県
44	中村地区	大川郡引田町黒羽字中村	町道菜切川線建設	引 田 町
45	楠木地区	大川郡志度町鴨郡字西上月	町道馬次下大井線建設	志 度 町
46	原間地区	大川郡大内町川東	は場整備事業	大 内 町

VI 埋蔵文化財現地踏査・立会調査の概況

番号	位 置	原 因	事 業 主 体	事 業 面 積	調査内容
1	大川郡白鳥町白鳥	県営は場整備事業(白鳥上地区)	県土地改良課	約20,000m ²	立 会 調 査
2	坂出市川津町	国道438号改良	県道路建設課	約500m ²	立 会 調 査
3	丸龜市金倉町	西汐入川改修	県河川課	約500m ²	分 布 調 査
4	三豊郡詫間町	民間土地造成	個人	約300m ²	立 会 調 査

調査主体	面積 (m ²)	調査期間	担当者	費用負担	調査の結果
香川県教委	60	11. 10. 8	文化行政課 塩崎 誠司	国・県	包蔵地確認されず
香川県教委	120	11. 10. 12	文化行政課 塩崎 誠司	国・県	包蔵地確認 平成12年度事前調査
高松市教委	51	11. 10. 12~11. 10. 15	高松市教委 川畑 慶・小川 賢	国・県・市	包蔵地確認 平成11年度事前調査
香川県教委	100	11. 10. 14	文化行政課 塩崎 誠司	香川県教委	包蔵地確認されず
香川県教委	100	11. 10. 15	文化行政課 塩崎 誠司	国・県	包蔵地確認されず
丸亀市教委	228	11. 10. 20~11. 11. 1	丸亀市教委 東 信男	国・県・市	包蔵地確認されず
津田町教委	12	11. 10. 21~11. 11. 2	大川広域 萬木 一郎	津田町	包蔵地確認されず
高松市教委	90	11. 10. 26~11. 10. 28	高松市教委 小川 賢	国・県・市	包蔵地確認 平成12年度事前調査予定
香川県教委	100	11. 11. 4~11. 11. 5	文化行政課 塩崎 誠司	国・県	包蔵地確認 平成11年度事前調査
高松市教委	97	11. 11. 8~11. 11. 9	高松市教委 小川 賢	高松市	包蔵地確認 平成11年度事前調査
香川県教委	240	11. 11. 9~11. 11. 10	文化行政課 森 格也	国・県	包蔵地確認現状保存
坂出市教委	28	11. 11. 11~11. 12. 10	坂出市教委 今井 和彦	国・県・市	包蔵地確認
高松市教委	12	11. 11. 17	高松市教委 小川 賢	国・県・市	包蔵地確認されず
香川県教委	120	11. 12. 9~11. 12. 10	文化行政課 塩崎 誠司	国・県	包蔵地確認されず
香川県教委	250	12. 1. 28~12. 2. 1	文化行政課 塩崎 誠司	香川県教委	包蔵地確認されず
志度町教委	30	12. 1. 28	大川広域 阿河 銳二	志度町	包蔵地確認されず
津田町教委	17	12. 2. 1~12. 2. 15	大川広域 萬木 一郎	津田町	包蔵地確認現状保存
綾南町教委	120	12. 2. 10	片桐 節子	綾南町	包蔵地確認されず
香川県教委	200	12. 2. 15~12. 2. 16	文化行政課 森 格也	国・県	包蔵地確認されず
引田町教委	22	12. 2. 18	大川広域 萬木 一郎	引田町	包蔵地確認されず
志度町教委	58	12. 3. 6~12. 3. 7	大川広域 阿河 銳二	志度町	包蔵地確認されず
大内町教委	65	12. 3. 15~12. 3. 17	大川広域 阿河 銳二	大内町	包蔵地確認盛土保存

調査の原因	調査主体担当	調査期間	調査結果の概要
事業面積が広大であるため	県教委・塩崎	11・4・21	埋蔵文化財包蔵地確認されず。
川津六反地遺跡に隣接	県教委・塩崎	11・4・26	埋蔵文化財包蔵地確認されず。
中の池遺跡に隣接	県教委・塩崎	11・4・28	埋蔵文化財包蔵地確認されず。
詫問城跡に隣接	詫問町教委 県教委・塩崎	11・4・30	埋蔵文化財包蔵地確認されず。

番号	位 置	原 因	事 業 主 体	事 業 面 積	調 査 内 容
5	大川郡白鳥町	国道318号改良	県横断自動車道対策室	約400m ²	立会調査
6	高松市（室山山頂）	松くい虫防止地上散布に伴う林道設置	県林務課	約700m ²	分布調査
7	大川郡大川町富田西	津田川改修	県河川砂防課	約1000m ²	分布調査
8	綾歌郡綾南町陶	県営ほ場整備事業（綾南部地区）	県土地改良課	約500m ²	立会調査
9	大川郡白鳥町白鳥	漆川改修	県河川砂防課	約6000m ²	分布調査
10	三豊郡大野原町丸井	大池改修	中四農政局香川農地防災事業所	約40000m ²	分布調査
11	大川郡大川町富田中	県営ため池改修事業	県土地改良課	2,000m ²	立会調査
12	坂出市青海町	五色台ビジターセンター解体工事	県環境・土地政策課	約700m ²	立会調査
13	仲多度郡琴南町造田	工場用地造成	個人	約1,200m ²	分布調査
14	普通寺市南町	自衛隊普通寺駐屯地隊舎増設	陸上自衛隊普通寺駐屯地業務隊	約1000m ²	立会調査
15	綾歌郡綾南町陶	県営ほ場整備事業（綾南部地区）	県土地改良課	約500m ²	立会調査
16	大川郡長尾町	鴨部川改修工事	県河川砂防課	約2000m ²	立会調査
17	大川郡大内町水主	県営ほ場整備事業（大内水主地区）	県土地改良課	約1,500m ²	立会調査
18	観音寺市中岡町	藤の木川改修	県河川課	約400m ²	立会調査
19	観音寺市茂木町	観音寺第一高校セミナーハウス建設	県高校教育課	約700m ²	立会調査
20	大川郡長尾町	鴨部川改修工事	県河川砂防課	約2000m ²	立会調査
21	香川郡香川町	県道岩崎高松線改良	県道路建設課	約500m ²	立会調査
22	綾歌郡綾歌町栗熊西	国道32号綾歌バイパス建設	建設省	約100m ²	立会調査
23	綾歌郡綾南町萱原	北条池改修	中四農政局香川農地防災事業所	約30000m ²	分布調査
24	高松市男木町	男木島急傾斜防災事業	県河川砂防課	約1000m ²	分布調査
25	三豊郡詫間町須田	県道紫雲出山線（須田BP）建設	県道路建設課	約800m ²	立会調査
26	高松市鬼無町	佐料川中砂防工事	県河川砂防課	約2000m ²	分布調査
27	坂出市青海町	五色台博物施設解体工事	県環境・土地政策課	約700m ²	立会調査
28	高松市東植田町	県道塩江屋島西線改良	県道路建設課	約500m ²	立会調査
29	大川郡白鳥町	国道318号改良	県横断自動車道対策室	約400m ²	立会調査
30	綾歌郡飯山町上法軍寺	仁池改修	中四農政局香川農地防災事業所	2,000m ²	立会調査
31	普通寺市大麻町	四国農業試験場施設建設	四国農業試験場	約5,000m ²	立会調査
32	国分寺町国分	閑ノ池改修	県土地改良課	約20,000m ²	分布調査

調査の原因	調査主体担当	調査期間	調査結果の概要
成重遺跡に隣接	県教委・森	11・5・12	中世の溝1条検出。
稻荷山姫塚古墳に隣接	県教委・塩崎	11・5・17	埋蔵文化財包蔵地確認されず。
大井遺跡・古枝西遺跡に隣接	県教委・森	11・6・3	埋蔵文化財包蔵地確認されず。
平松池窯跡に隣接	県教委・塩崎	11・6・4	埋蔵文化財包蔵地確認されず。
事業面積が広大であるため	県教委・森	11・6・8	埋蔵文化財包蔵地確認されず。
事業面積が広大であるため	県教委・森	11・6・10	埋蔵文化財包蔵地確認されず。
事業面積が広大であるため	県教委・塩崎	11・6・11	埋蔵文化財包蔵地確認されず。
タンペ池遺跡に隣接	県教委・塩崎	11・6・22	埋蔵文化財包蔵地確認されず。
庵谷遺跡に隣接	琴南町教委 県教委・塩崎	11・6・25	工事立会の必要な箇所を指示
藤の森古墳に隣接	県教委・西村	11・6・28	埋蔵文化財包蔵地確認されず。
平松池窯跡に隣接	県教委・塩崎	11・7・22	埋蔵文化財包蔵地確認されず。
下屋遺跡に隣接	県教委・森	11・7・23	埋蔵文化財包蔵地確認されず。
事業面積が広大であるため	県教委・塩崎	11・7・26	埋蔵文化財包蔵地確認されず。
大門遺跡に隣接	県教委・塩崎	11・7・27	埋蔵文化財包蔵地確認されず。
事業面積が広大であるため	県教委・塩崎	11・7・27	埋蔵文化財包蔵地確認されず。
下屋遺跡に隣接	県教委・森	11・7・28	埋蔵文化財包蔵地確認されず。
試掘により希薄な包含層を検出した箇所に隣接	県教委・森	11・7・30	埋蔵文化財包蔵地確認されず。
佐古川・窪田遺跡に隣接	県教委・西村	11・8・18	埋蔵文化財包蔵地確認されず。
北条池窯跡群に隣接	県教委・森	11・9・22	試掘調査の必要な範囲を指示。
荒神古墳に隣接	県教委・森	11・9・28	埋蔵文化財包蔵地確認されず。
本村中遺跡に隣接	県教委・塩崎	11・10・4	埋蔵文化財包蔵地確認されず。
善師垣古墳群に隣接	県教委・森	11・10・4	埋蔵文化財包蔵地確認されず。
倉谷東遺跡に隣接	県教委・塩崎	11・10・7	埋蔵文化財包蔵地確認されず。
北治古墳に隣接	県教委・森	11・10・8	埋蔵文化財包蔵地確認されず。
成重遺跡に隣接	県教委・森	11・10・13	埋蔵文化財包蔵地確認されず。
仁池遺跡内	県教委・森	11・10・14	弥生土器片少量出土
事業面積が広大であるため	県教委・塩崎	11・10・18	埋蔵文化財包蔵地確認されず。
事業面積が広大であるため	県教委・塩崎	11・10・21	工事立会の必要な範囲を指示。

番号	位 置	原 因	事 業 主 体	事 業 面 積	調査 内 容
33	大川郡大川町富田中	県営ため池改修事業	県土地改良課	2,000m ²	立会 調査
34	綾歌郡綾歌町岡田東	県営ため池改修事業	県土地改良課	2,000m ²	分布 調査
35	坂出市川津町	国道438号改良	県道路建設課	約500m ²	立会 調査
36	三豊郡三野町宗吉	県営ため池改修事業	県土地改良課	約650m ²	立会 調査
37	大川郡寒川町蓑神	県営ため池改修事業	県土地改良課	2,000m ²	立会 調査
38	三豊郡山本町辻	県道込野観音寺線改良	県道路保全課	約400m ²	立会 調査
39	高松市檀紙町	県道太田上町国分寺線改良	県道路建設課	約500m ²	立会 調査
40	丸亀市大手町	丸亀警察署増改築	県警察本部会計課	約500m ²	立会 調査
41	大川郡寒川町蓑神	大川南部農道建設	県土地改良課	約3,000m ²	立会 調査
42	高松市（室山山頂）	松くい虫防止地上散布に伴う林道設置	県林務課	約700m ²	分布 調査
43	高松市檀紙町	県道太田上町国分寺線改良	県道路建設課	約500m ²	立会 調査

調査の原因	調査主体担当	調査期間	調査結果の概要
事業面積が広大であるため	県教委・塩崎	11・10・26	埋蔵文化財包蔵地確認されず。
蓮光寺跡に隣接	県教委・塩崎	11・10・27	工事立会の必要な範囲を指示。
川津六反地遺跡に隣接	県教委・塩崎	11・11・1	埋蔵文化財包蔵地確認されず。
宗吉瓦窯跡に隣接	県教委・塩崎	11・11・2	埋蔵文化財包蔵地確認されず。
事業面積が広大であるため	県教委・塩崎	11・11・11	埋蔵文化財包蔵地確認されず。
権の助遺跡に隣接	県教委・塩崎	11・11・24	埋蔵文化財包蔵地確認されず。
八幡遺跡に隣接	県教委・森	11・11・26	埋蔵文化財包蔵地確認されず。
丸亀城跡に隣接	県教委・塩崎	11・11・29	埋蔵文化財包蔵地確認されず。
事業面積が広大であるため	県教委・塩崎	11・12・28	埋蔵文化財包蔵地確認されず。
稲荷山姫塚古墳に隣接	県教委・塩崎	12・1・14	埋蔵文化財包蔵地確認されず。
八幡遺跡に隣接	県教委・森	12・1・25	埋蔵文化財包蔵地確認されず。

発掘調査の概況

か れい おお あさ こ ふん 加 嶺 大 麻 古 墳

1. 所在地 三豊郡仁尾町仁尾字加嶺
2. 調査主体 香川県教育委員会
3. 調査期間 平成11年7月15日～7月19日
4. 調査面積 約50m²
5. 調査担当者 文化行政課塩崎誠司
6. 調査の原因 県道丸亀詫間豊浜線道路改良工事
7. 調査結果の概要

加嶺大麻古墳は、仁尾町北部、詫間町との町境を画する高尾木山から派生する丘陵裾部に位置している。調査は、標記事業に伴い平成4年度に実施されていたが、今回、埋葬主体部である横穴式石室を近隣の公園に移築することに伴い追加調査を行なったものである。

古墳の石室は、平成4年度の調査当初から、奥壁及び側壁の両側一石ずつを残すのみで石室の大半は既に失われていた。今回の調査は、以前の調査では得られなかった、石室の解体に伴う石室を構築するための墓坑プランの確認・完掘及び僅かに残された玄室敷石の撤去に伴う再調査を主眼に置いて実施している。この結果、石室内で新たに須恵器片数点及び石室を構築するための墓坑内で土師器1点が出土している。その出土状況から原位置を保つものではなく、いずれも小片で時期の特定は難しいが6世紀末～7世紀初頭のものと推定される。石室を構築するための墓坑の掘り方は、奥壁及び西壁のごく一部で確認されたのみで、詳細は不明であるが現況の傾斜地形を利用し、石室の奥壁側下半は地山を削り出し上半は版築盛土で造成した可能性が高い。

8.まとめ

同古墳は、今までのところ、仁尾町内で唯一確認されている後期古墳で、仁尾平野を一望できるだけでなく、詫間側との交通を考える上でも加嶺峠を抜けるルートを抑える絶好の地点に位置している。当該期の仁尾地域における権力基盤の形成を考える上で貴重な古墳である。

(塩崎)



第1図 遺跡の位置（「仁尾」）



第2図 石室構築墓坑検出状況



第3図 石材撤去後の完掘状況

見立遺跡

1. 所在地 仲多度郡多度津町大字見立字浜
2. 調査主体 香川県教育委員会
3. 調査期間 平成11年11月27日
4. 調査面積 約50m²
5. 調査担当者 文化行政課塩崎誠司
6. 調査の原因 県道丸亀詫間豊浜線道路改良工事
7. 調査結果の概要

調査地は、幅2km奥行1km程度の海に面した比較的広い谷地形の西端部に位置し、海岸部では周辺地域の中では大きな砂堆が形成されている。砂堆上では、現在でも集落が形成されており、背後の緩やかな斜面地も現在では果樹園として乾燥化しているが、以前は、後背湿地が広がっていたことが容易に想像できる。また、谷地形内に在る独立丘陵には古墳が築かれており、この谷地形内で一定の力を持った首長の存在がうかがえる。当該地域におけるこれまでの埋蔵文化財の包蔵状況は、上記の古墳以外は不明な点が多く、また調査等も皆無であったことから、標記事業の実施にともない工事中の立会を実施している。調査の結果、調査地の東端、現地表下約60cmで幅1.4m、深さ30cmの溝状遺構を検出している。ただ、遺物は全く含まれておらず時期の特定には至っていない。なお、調査地西端部では現地表下約2mで、土坑を検出している。遺構から出土した遺物は第3図のとおりで、時期は概ね弥生時代後期後半段階に相当する。検出した遺構は、両者ともほぼ、同レベルで埋土の状況も同様であることから、上記溝状遺構についても同じ時期の所産である可能性が高い。また、検出された遺構間の距離は僅かでありながら、埋没深度に大きな差がみられるのは、当該期以降の地形変更が場所により大きな差があったことを物語る。

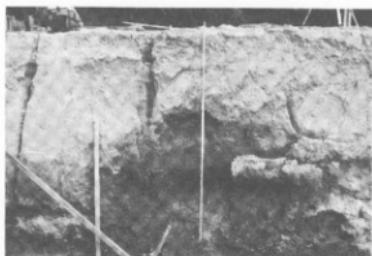
8.まとめ

今回の調査は、工事面積が僅かであったこともあり部分的なものにとどまったが、砂堆の背後を中心には弥生時代の生活痕跡がみられることが判明した。今後、周辺部の開発等には十分注意を払う必要があろう。

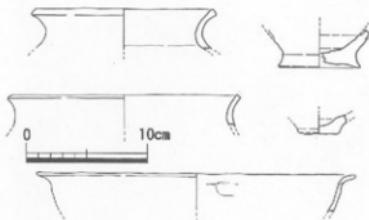
(塩崎)



第1図 遺跡の位置（「仁尾」）



第2図 調査地西端遺構検出状況



第3図 出土遺物実測図

きゅうれんべいじょういせき 旧練兵場遺跡

1. 所在地 善通寺市仙遊町1-3-1
2. 調査主体 香川県教育委員会
3. 調査期間 平成11年9月1日～9月10日
4. 調査面積 約800m²
5. 調査担当者 文化行政課塩崎誠司
6. 調査の原因 四国農業試験場排水溝建設
7. 調査結果の概要

調査地は、弥生時代から中世に至る集落が広範囲に広がることで著名な「旧練兵場遺跡」内に位置する。同遺跡は、これまで、数多くの調査が行なわれているが、調査面積が僅かのため、弥生時代の拠点的な大集落が存在することは明らかになっているものの、古墳時代以降の集落の変遷を含めた遺跡全体の評価にまで至っていないのが現状である。

標記事案は、施設の農地の約半分の範囲に幅約1mの排水溝を新築及び既存水路を改修するもので、当初から埋蔵文化財の保護のため、工事中の立会を行なった。その結果、一部で遺物包含層及び遺構面まで達する範囲がみられたため、その範囲において急速調査を実施している。ただし、遺構面に達するものについては、掘削を止め、その深度での工事計画変更をしている。調査は、工事による影響を被る範囲のみで実施したため、不明な部分が多いが、農地の南東部を中心に6世紀後半～7世紀前半の大規模な集落が存在する可能性が高いことが判明した。これは、以前実施された敷地外の隣接地の調査成果とも符号する。一方、弥生時代中期後半～後期末に至る集落はほぼ敷地全域に広がることが判明した。また、農場入口から本棟に向かう直線道路とほぼ平行に中世～近世の土器片を含む大溝状遺構を検出している。条里に伴う坪境溝である可能性が高い。

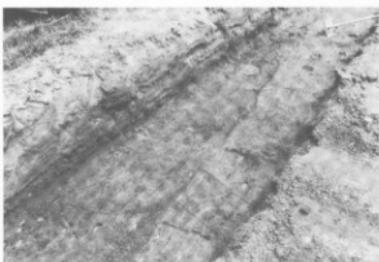
8.まとめ

今回の調査は、工事が簡易な工作物であったため、遺跡の現状保存に主眼を置いたものとなつた。そのため調査自体は、極めて部分的で不完全にならざるを得なかつたが遺跡全体の評価に関連する貴重な成果も得られた。詳細は、本報告で検討したい。

(塩崎)



第1図 遺跡の位置（「善通寺」）



第2図 堅穴住居状遺構検出状況



第3図 遺物出土状況

五条遺跡

1. 所在地 善通寺市原田町字五条
2. 調査主体 香川県教育委員会
3. 調査期間 平成12年2月8日～2月29日
4. 調査面積 約500m²
5. 調査担当者 文化行政課塩崎誠司
6. 調査の原因 県道府中善通寺線改良事業
7. 調査結果の概要

調査地は、丸龜平野西部を北流する金蔵川及びその旧河道が形成した沖積平野部に位置し、付近では同遺跡のほか、弥生時代前期を主体とした遺跡が多く確認されており、旧河道間に形成された微高地を巧みに利用した集落選地が想定される。

今回の調査は、平成5年度に調査が実施された個所の東側一帯で、前回の調査で検出された弥生時代前期の集落を巡る環濠に対応する環濠の一部が調査地東端で確認されている。これにより、同遺跡の集落範囲がほぼ明らかになり、南方に位置する龍川五条遺跡の集落とほぼ同様の広がりを持つことが判明した。また、環濠上層では、櫛描文様をもつ土器が出土しており、環濠の最終埋没時期は中期初頭まで降ることが確認された。また、環濠中層では、土版型（顔型？）土製品が出土しており、中期の分銅型土製品の系譜を考慮する上で興味深い。また、環濠内部の集落域では、柱穴跡のほかに、縦1.2m内外の規模を持つ楕円・もしくは方形土坑が検出されている。当初は土坑墓を想定していたが、遺構底面は平坦部をもたず、土器も比較的多量に出土することから、廃棄土坑とも考えられる。本報告で再検討したい。

8.まとめ

丸龜平野部における当該期の集落展開は、下流域に所在する中の池遺跡等を含めて、近年の調査で大きな成果が得られている。弥生文化移入の問題も含めて、平野単位で検討を深める必要があろう。

(塩崎)



第1図 遺跡の位置（「善通寺」）



第2図 調査地全景（遺構検出状況）



第3図 環濠内遺物出土状況（中層）

じゅう らく じ あと 十 樂 寺 跡

1. 所在地 綾歌郡宇多津町大字東分字十樂寺
2. 調査主体 香川県教育委員会
3. 調査期間 平成11年11月7日
4. 調査面積 約100m²
5. 調査担当者 文化行政課塩崎誠司
6. 調査の原因 地域ぐるみため池再編総合整備事業（十樂寺池）
7. 調査結果の概要

調査地は、青ノ山麓南西部に位置し、調査地からは、西に大東川下流域の平野部を一望でき、南は飯野山をみることができる好所に位置する。同池については、その名の示すとおり、平安時代の創建と伝えられる「十樂寺」が池の西側に接して所在しているが、同寺の詳しい概要については不明な点が多い。

今回、標記事業の実施に伴い池内部に相当規模の浚渫が行なわれることが判明したことから、事前に分布調査を実施したものである。分布調査の結果、同池北西部岸で中世後半階層の土器片の散布がみられた。出土物は、第3図のとおりで、全体では土釜の破片が多い。散布範囲の西側（寺が存在していたとすれば寺域に該当する範囲）は既に宅地造成がされており、今回、確認した散布遺物についても、周辺の地形変更に伴い二次的な移動を被っている可能性が高いと判断される。また、古瓦等の寺院に関連する遺物の出土は皆無で、周知の埋蔵文化財包蔵地「十樂寺跡」と今回の出土遺物を直接的に結びつけることはできない。ただし、字名として残る「十樂寺」及び北方に位置する宇多津の中世寺院群から、当該地に遙くとも中世段階までに寺院が存在していた可能性は高いと考えられる。また、調査地の麓に位置する現在の十樂寺集落は、近世以降に出現した集落で宇多津の中では比較的新しい集落とされていたが、今回の調査で、当該地域も中世段階までその生活痕跡がみられることが判明したのは大きな成果であった。

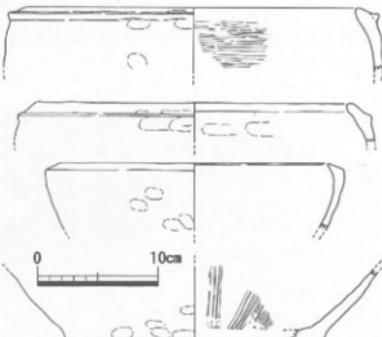
今回調査での遺物散布範囲の発見により、同範囲は事業計画変更で現状のまま保存されることになった。今後の周辺部の開発等にも適切な保護措置を図る必要がある。（塩崎）



第2図 遺物散布範囲近景



第1図 遺跡の位置（「丸亀」）



第3図 出土遺物実測図

にし やま しも いけ こ ふん
西山下池古墳

1. 所在地 綾歌郡綾歌町大字岡田字西山
2. 調査主体 香川県教育委員会
3. 調査期間 平成11年11月16日～11月22日
4. 調査面積 約80m²
5. 調査担当者 文化行政課塩崎誠司
6. 調査の原因 県営綾歌西部地区西山下池改修工事
7. 調査結果の概要

調査地は、土器川中流の西岸に位置する独立丘陵である西山が形成する狭い谷地形内に位置する。現在では2つのため池（西山上池・西山下池）が所在しているが、上池のさらに奥には古代寺院と伝えられる「蓮光寺跡」が、上池の西岸には中世期の窯跡として知られる「西山窯跡」があり、遺跡密度の濃い地域である。今回の調査は、標記事業の工事に際して、西山下池奥の西山上池堤防直下に当たる地点で須恵器が一括して出土したことから急速調査を実施したものである。調査の結果、遺物が出土した地点に隣接して残存幅約1.5m、深さ15～40cmの周溝を検出している。残存範囲は僅かであるが、直径約12m程度の円墳に復元できる。周溝内からは大甕の破片が多数出土しており、破碎した可能性も考えられる。埋葬主体部と想定される横穴式石室は、同池の築造に伴い完全に消失したと考えられ、石室を築造した際の墓坑がごく僅かに残るのみであった。一括して出土した須恵器はこの石室が想定される場所からの出土で、完形の壺蓋、高环等が出土しており、遺物の形態からみて若干の時期差がみられる。以上の結果から、同古墳は7世紀初頭に築造され同中葉までの追葬期間が想定できる。また、特筆される遺物として、周溝から、7～8世紀代と推定される古瓦（丸瓦）が1点出土している。これは癒着がみられる失敗作で近接地に当該期の窯跡の存在を示唆するものである。西山上池奥に所在したと伝えられる「蓮光寺跡」との関連からも注目される。

(塩崎)



第1図 遺跡の位置（「普通寺」）



第2図 遺物出土状況



第3図 調査区全景（完掘状況）

むかい ばら い 遺 跡

1. 所在地 綾歌郡綾南町字萱原
2. 調査主体 香川県教育委員会
3. 調査期間 平成12年1月31日
4. 調査面積 約80m²
5. 調査担当者 文化行政課塩崎誠司
6. 調査の原因 県営は場整備事業（綾南南部地区）
7. 調査結果の概要

調査地は、北條池の南側、鞍掛山から派生する幾筋もの低位丘陵のすそ部に位置する。標記事業の実施に伴い試掘調査を実施した範囲外で、遺構・遺物が確認されたことから、急遽調査を実施している。調査の結果、工事により僅かに掘削された断面で耕作土下約30cmに、幅約2.2m、深さ約15cmの浅い落ち込みが検出された。遺構の性格としては土坑の可能性が考えられる。埋土は、黒褐色砂質土で、多量のサスカイト剥片及び弥生時代中期後半段階の土器片少量が出土している。出土遺物については、第3図に示すとおりで、いずれも断面精査中に同遺構から出土したものである。土器については器面の剥落が著しく調整等は不明である。今回の出土状況及び遺物については、東側で同事業に伴い試掘調査を行ない際に確認された遺跡とほぼ同様の性格を有することから、同遺跡が予想以上の広がりをもつことが判明した。

8.まとめ

調査地を含む、綾川及び富川水系を望む段丘上には、当該期の集落が広範囲に広がることが近年周辺部の調査で明らかになりつつある。同遺跡はその典型的な例で、その範囲も広範囲に及ぶことから、今後、当該地域における、弥生時代の集落の展開を探る上で貴重な資料であろう。

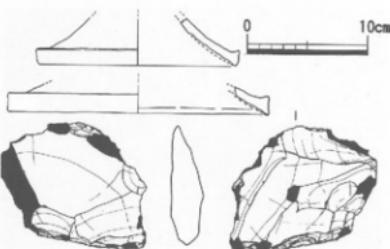
（塩崎）



第2図 遺構検出状況（断面）



第1図 遺跡の位置（「滝宮」）



第3図 出土遺物実測図（石器はS=1/2）

せき 関 ノ 池 遺 跡

1. 所在地 綾歌郡国分寺町大字国分字柏原
2. 調査主体 香川県教育委員会
3. 調査期間 平成11年11月2日
4. 調査面積 約200m²
5. 調査担当者 文化行政課塩崎誠司
6. 調査の原因 地域ぐるみため池再編総合整備事業
(柏原地区関ノ池)
7. 調査結果の概要

調査地は、国分寺町西部の浅く幅広い谷地形を堰き止めて造成された関ノ池北岸部に位置する。今年度の事業照会に伴い、事業予定地に周知の埋蔵文化財は所在しないが、事業面積が広大であったため、同池が干上がるの待ち、分布調査を実施したものである。同池は、江戸時代以降の築造であるがそれ以前は、池(谷)内は低湿地状であったことが、一方、南北両岸は比較的安定した緩斜面であったことが想定される。調査の結果、南北両岸で遺物の散布が認められた。南岸は、現在の国道11号バイパスの北側で中世末～近世の遺物散布が少量みられる。中世末の遺物には、国分寺町福家の楠井差處の破片がみられ、当該期における国分寺地域の需要と供給を考える上で興味深い。一方、北岸では、現在の青年センター南側を中心に古代～近世に至る遺物が多量に散布している。須恵器片・土師器片も少量出土しているが、圧倒的に古瓦の散布が多く、同センター造成や隣接して現在の野間川注ぎ口が所在することから、遺物の二次的な移動は十分考慮しなければならないが、それでも近在する「讃岐国分寺跡」と何らかの関連を持つことが想定される。

8.まとめ

同池は、国分寺町と坂出市府中町を画する分水嶺に当たり、古代以降同池築造までの間に、当該地が「讃岐国分寺跡」との関連を含めて地理的にも重要な役割を担ったことは容易に想像できる。なお、遺物散布範囲は、事業計画の変更により現状のまま保存される予定である。今後の調査が期待される。

(塩崎)



第1図 遺跡の位置（「白峰山」）



第2図 遺物散布範囲近景（北岸部）



第3図 遺物散布状況

道味遺跡

1. 所在地 大川郡寒川町石田西字大末
2. 調査主体 香川県教育委員会
3. 調査期間 平成12年2月1日
4. 調査面積 約100m²
5. 調査担当者 文化行政課塩崎誠司
6. 調査の原因 県営農道（大川南部地区）建設
7. 調査結果の概要

調査地は、山間部を縫うように流れる地蔵川が、寒川町平野部に注ぐ地点の東岸に位置する。今回、標記事業建設に伴い、一部で土器片の出土が判明したことから、急速調査を実施したものである。工事による掘削は既に終了していたことから、調査は断面の調査及び遺物の採集に止めている。

調査の結果、耕作土下約40cmから、弥生時代後期後半階の土器片を含む、暗灰褐色砂粒土層（層厚約30cm、一部で黒褐色炭ブロック少量混。）の堆積が見られた。また、同層下では、幅70cm深さ15cm程度の溝状の落ち込みを2箇所、絶約25cm程度の柱穴状の落ち込み1箇所を検出している。出土遺物は第3図のとおりでいずれも包含層からの出土である。ただし、同層下に厚く堆積している明茶灰色砂層下でも薄い暗灰褐色砂質土層の不安定な堆積がみられ、時期は不明ながら摩滅の著しい弥生土器細片が出土しており、現況の地形から、複数回にわたる小規模な当該期集落の存在が想定される。

8.まとめ

調査地は、現在の地蔵川に隣接するものの川面との比高差は10m以上あり、同川の直接的な影響は受けにくいと考えられたが、調査地の土層堆積状況から、弥生時代以前に複数回にわたり、洪水等による影響を被っていたことが判明した。東讃地域における当該期の地形形成及び環境の変遷を考える上でも興味深い。

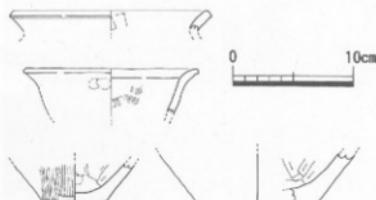
（塩崎）



第2図 調査時の状況（断面）



第1図 遺跡の位置（「鹿庭」）



第3図 出土遺物実測図

まる 山 古 墳

1. 所在地 観音寺市室本町字西丸山691番
2. 調査主体 観音寺市教育委員会
3. 調査期間 平成11年9月17日～3月27日
4. 調査面積 37.2m²
5. 調査担当者 観音寺市教育委員会事務局 生涯学習課久保田昇三
6. 調査の原因 観音寺市内遺跡発掘調査事業
7. 調査結果の概要

当古墳は、瀬戸内海をまじかにひかえた郷亀山と呼ばれる標高約50mの頂上部に立地し、直径約35mの円墳である。これまで、二基の竪穴式石室があったと言われていたが、第2号石室の存在は確認されず、これまで第1号石室とされてきた石室の規模が南北（現存長）約4m、東西約3.5mを越える巨大な石室であることが判明した。石室の周壁は扁平な石材（割石、板石等）を小口積みし持ち送りを行い、周到な控え積みを伴いながら構築されている。

石室の平面形が正方形に近い長方形の大型の石室プランと周壁が持ち送りの構造で少なくとも石室高が2.5mを越える穹窿状の天井構造と推測されることや埋納されることや理納されている可能性もあり、石室の南側部分が失われていることにより確認の方法が困難ではあるが、横穴式石室である可能性が高いものと思われる。出土した円筒埴輪からは5世紀中葉から後半の時期が考えられ、九州における初期横穴式石室の時期に相当する。石室構造からみれば肥後系に近いが、肥後系の特徴である石障を持っていない。そのうえ、九州では肥後系の石室に舟形石棺が埋納されているセット関係の事例がなく、古墳墓道に関する諸要素が個々別々に導入された可能性も考えられており、今後、遺跡の性格を評価するには慎重な議論が必要である。また、石室幅だけでみれば、5世紀代の横穴式石室においては国内最大級であることは、当古墳の被葬者像を考察するうえで注目すべき点である。

なお、出土品には、鉄剣、鉄刀などのほか、動物埴輪（馬形埴輪、鳥形埴輪、偶蹄目の動物埴輪）やキヌガサ形埴輪などがある。
(久保田)



第1図 遺跡の位置（「観音寺」）



第2図 丸山古墳の石室と石棺



第3図 石室（北・東壁）の状況

むね よし が よう あと 宗 吉 瓦 窯 跡

1. 所在地 三豊郡三野町大字吉津字宗吉
 2. 調査主体 三野町教育委員会
 3. 調査機関 平成11年4月5日
～平成12年3月31日
 4. 調査面積 約1200m²
 5. 調査担当者 三野町教育委員会
白川雄一
 6. 調査の原因 三野町内遺跡発掘調査事業
 7. 調査結果の概要
- ①遺構 トレンチを10箇所設定した。1トレンチでは昨年度に上面を検出した17号窯の窯体内に引き続き調査するとともに、それに伴うと考えられる灰原を検出している。その結果、窯本体の規模は約13mであり、国内における同様の構造を持つ瓦窯の中では最も大規模であることが判明した。2トレンチでは新たに6基の窯の存在が確認され、南側からそれぞれ18～23号窯と命名した。2～6トレンチでは各窯にともなうと考えられる排水溝を検出している。

- ②遺物 17号窯窯体内及び1トレンチ攪乱層

から出土した2種類の軒丸瓦は、地元寺院の妙音寺から出土した軒丸瓦MO102B型式及びMO103型式（高松市立歴史資料館1996）とそれぞれ同范である。しかし、胎土・焼成・製作技法から見て、17号窯の操業に伴う遺物とは考えられず、他の窯で焼成されたものである可能性が強い。

8.まとめ

今年度の調査により17号窯の規模及び構造が明らかになるとともに、藤原宮・宝幢寺以外の瓦の供給先が明らかになった。また、窯跡群は排水溝により、少なくとも4つのグループに分かれることが判明しており、各グループ間に時期差が存在する可能性が強い。

今後は17号窯以外の窯本体を調査し、出土遺物との対応関係を確認した上で、本遺跡の成立過程について明らかにしていきたい。



第1図 遺跡の位置（「仁尾」）



第2図 17号窯全景

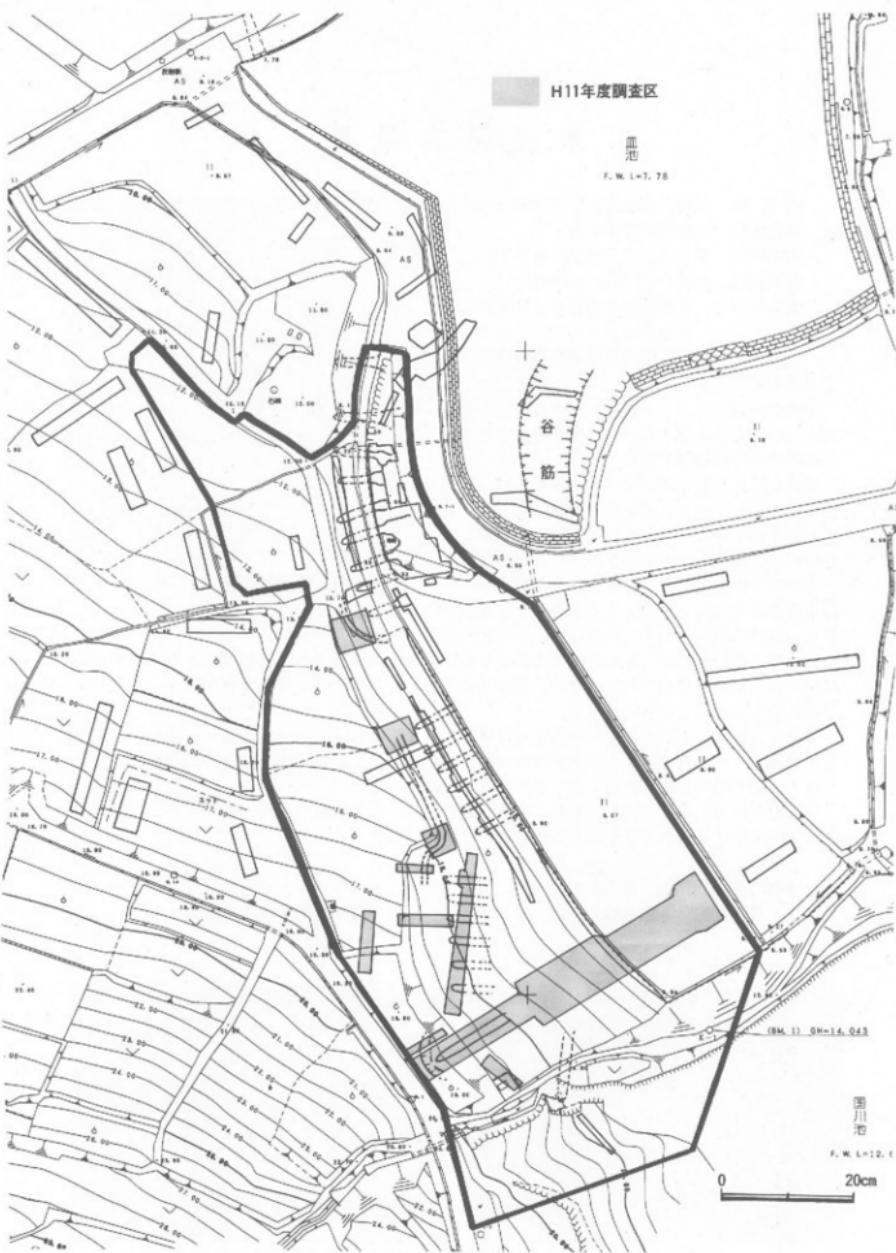


第3図 単弁八葉蓮華文軒丸瓦 2種

H11年度調査区

皿池

F. W. L=7. 78



第4図 道構配置図

堂ヶ鼻古墳群

1. 所在地 三豊郡高瀬町大字上高瀬
2. 調査主体 高瀬町教育委員会
3. 調査期間 平成12年1月26日～3月7日
4. 調査面積 700m² (主体のみ50m²)
5. 調査担当者 高瀬町教育委員会生涯学習課
佐柳真樹
6. 調査の原因 高瀬町内遺跡発掘調査事業
7. 調査結果の概要

今回の調査では、今後の遺跡の保存と活用を図るために資料を得るために、古墳の墳丘とその周囲の状況等の確認を行った。

調査は墳丘とその周辺の地形測量を行い、調査区を設定してトレンチ調査を開始した。

トレンチは1号墳については4箇所、2号墳については2箇所の計6箇所を周囲に設定した。

表面精査の段階から出土遺物は皆無であり、出土遺物としてはトレンチ3の表土直下に鉄器碎片（器種不明）が出土したのみで、その他には土器片は全く出土していない。

1号墳の墳丘規模は、トレンチ調査により直径約9mの円墳であり、周溝を含む墓域の範囲は約10mの規模と推定される。なお、周溝等は3本のトレンチで明瞭な土層が確認できたので、前述の墳丘規模等の根拠となった。

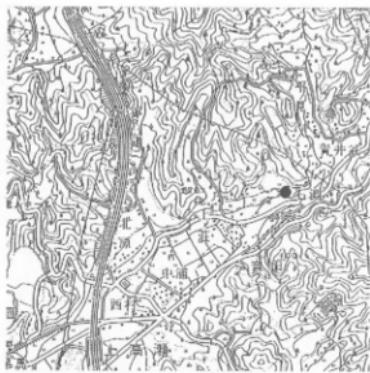
また2号墳については、測量調査からは墳丘らしき盛り上がりが見られるが、後世の削平を受けて墳丘らしく見えるような状態になったと思われる。トレンチ調査では地山が確認されただけで、周溝等の遺構は確認することができなかった。

一部石材が露出していたが、それが石室のものかどうかは確認できなかった。従って現在のところ積極的に古墳かどうかの判断はしかねる。

8.まとめ

1号墳の築造年代は、参考とできる出土遺物が無いことからはっきりと推定できないが、形式などから6世紀後半のものと推定されるが、詳しくは今後の本調査を待ち判断したい。

(佐柳)



第1図 遺跡の位置（「仁尾」）



第2図 1号墳調査前状況（南西より）



第3図 トレンチ3周溝検出状況（北西より）

きたがもいちにいせき 北鴨 I・II 遺跡

1. 所在地 仲多度郡多度津町北鴨
2. 調査主体 多度津町教育委員会
3. 調査期間 平成11年6月1日～6月5日、
11月25日
4. 調査面積 202.8m²
5. 調査担当者 岡 敦志
6. 調査の原因 民間開発事業に伴う試掘確認調査
7. 調査結果の概要

本調査区は本町西部に位置し、平成10年度の中世城館分布調査時に文献により推定した城館跡地を含む地域である。

調査区南には、蛸壺等が出土した「南鴨遺跡」がある。北には「東溝坊」と呼ばれる埋蔵文化財包蔵地があり、寺院関連の遺構が存在する可能性がある。

今回の試掘確認調査の結果、ピット3個・溝状遺構1条を検出したが、すべて包含層からであり、年代は不明である。

また、地山面から弥生土器片が出土した箇所があったが、遺構上の遺物とは考えがたく、自然地形のなだらかな落ち部分に土器片が集積したものと推察する。

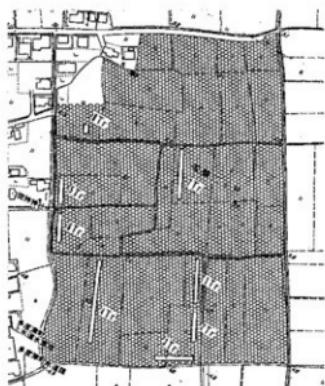
8. まとめ

本遺跡は調査の結果、2箇所で包含層でのピットを確認したことにより、新たに発見した遺跡であるが、遺物及び遺構の数が乏しく、年代及び性格・特色を判断することは難しい。

また、調査区南の微高地の落ちが本調査区南西部にあたり、この近辺からピットを確認したことから、調査区南西部を「北鴨I遺跡」、中世城館分布調査時に城館として推定した箇所付近を「北鴨II遺跡」とした。
(岡)



第1図 遺跡の位置（「丸亀」）



第2図 トレンチ位置図



第3図 小地名図 (開発予定地内)

の 野 田 院 古 墳

1. 所 在 地 善通寺市善通寺町2830-196
2. 調査主体 善通寺市教育委員会
3. 調査期間 平成11年7月～平成11年8月
4. 調査面積 約50m²
5. 調査担当者 善通寺市教育委員会篠川龍

6. 調査の原因 史跡有岡古墳群保存整備事業

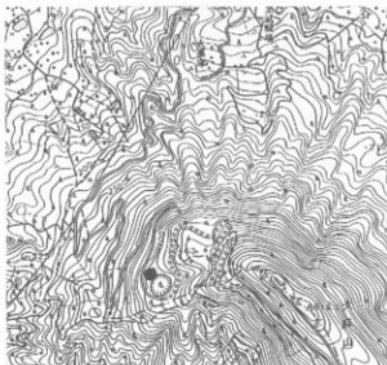
7. 調査結果の概要

平成9年度からの継続調査である。平成9年度は古墳周囲にトレンチを設定し、墳丘の正確な規模や形状を把握するための調査を実施し、平成10年度は後円部基底部全体の検出作業と、新たに発見された第二主体部の発掘調査を実施した。第二主体部は盜掘を受けていたものの遺存状況は良好で構築当時の状態をとどめており、出土したガラス玉・碧玉製管玉・鉄剣・土師器などから本墳が3世紀後半代の構築であることが判明している。平成11年度にはくびれ部を中心に発掘調査を実施し、後円部の構造を更に明らかにすることできた。後円部は全て石材で構築され、その基底部は扁平な石材が直立し石垣状に積まれている。この壁は80cm程の高さがあり、この上部で幅1m程の平坦なテラス面を経て二段目の壁が一段目と同様に積まれていることが判明した。また、前方部にも小トレンチを設定し、墳丘表面の葺石の遺存状況を確認した。

8.まとめ

古墳発生期の積み石の前方後円墳は讃岐（香川県）を中心に分布しているが、今回のような本格的な発掘調査が最古式の積石塚で行われ、墳丘構築の詳細が判明したのは初めてのことである。後円部の大半が大きく崩れているが、くびれ部では後で盛られた土砂（前方部）によって、二段築構造が完全に保存されていることが確認できたことは本年度の調査の大きな成果である。調査により得られた結果は積み石塚の研究上画期的なもので、今後、前方後円墳の起源や古墳発生期の国内社会の環境などを考える上で大変重要な資料となった。

（篠川）



第1図 遺跡の位置（「善通寺」）



第2図 くびれ部で確認された後円部の二段築



第3図 前方部の葺石検出状況

旧練兵場遺跡

1. 所在地 普通寺市仙遊町2-3-32
2. 調査主体 普通寺市教育委員会
3. 調査期間 平成11年11月20日~30日
4. 調査面積 約80m²
5. 調査担当者 普通寺市教育委員会 笹川龍一
6. 調査の原因 ふれあいサロン五岳建設工事
7. 調査結果の概要

当該地は旧練兵場遺跡内に位置している。東側に隣接する国立病院内では施設改修に伴う埋蔵文化財の発掘調査が頻繁に実施されており、弥生時代から古墳時代にかけての拠点集落が広がっていることが確認されている。

遺構面は地表面下約1mにあり、遺構面上には8世紀頃までの土器片を含む20cm程の厚さの包含層が確認できた。これより上層は練兵場として整地された際の客土層である。遺構は調査対象地内にはば全域に散在しており、柱穴や土坑・溝などが検出されたが、遺構埋土中に含まれている遺物は極めて少ない。また、調査範囲を建物の基礎建設に伴い掘削される範囲に限定したため、その性格を明らかにできるものは無いが、住居跡の可能性がある遺構も存在している。

遺構は8世紀頃のものと弥生時代のものが複合して遺存しているようである。遺構面は調査区の北東端で北東方向に下っており、この部分に多量の土器が堆積していた。土器は全て弥生時代中期（第4様式）のもので、出土状況から一括廃棄されたものと見られる。

8.まとめ

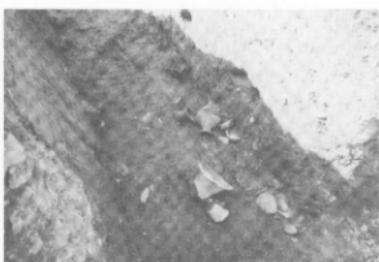
土器の保存状態は良好で器種も豊富であり、県下の弥生時代中期の様相を知る上で重要な資料である。また土器が出土した落ち込み部分は、その形状や遺物の出土状況などから自然流路の肩部と思われ、近年、当該地の北東側で国立病院内の施設建設に伴い実施された発掘調査で確認された自然流路の延長である可能性が高い。旧練兵場遺跡内にはこのような自然流路が複数あり、流路間の微高地上に集落遺跡が広がる様子が徐々に解明されつつある。（笹川）



第1図 遺跡の位置（「善通寺」）



第2図 遺構の検出状況



第3図 調査区北東端の遺物出土状況

し せき まる がめ じょう あと 史 跡 丸 龜 城 跡

1. 所 在 地 丸亀市一番丁（丸亀城跡）
2. 調査主体 丸亀市教育委員会文化課
3. 調査期間 平成11年10月13日から
平成12年3月28日まで
4. 調査面積 約870m²
5. 調査担当者 東 信男
6. 調査の原因 三の丸東石垣修理工事
7. 調査結果の概要

今年度は、昨年度と同様に三の丸東石垣東北部の石垣修理箇所の調査で、石垣の取り外しと並行しながら遺構及び土層の確認をした。

この史跡石垣は、築石部の天端標高は51mで、地面からの高さは15mある。この石垣は地面下約5mまで続いており、高さ20mを測る。先端部の櫓台石垣は、上部の石材が取り外されているが、根石までの現状高は約18.5mある。史跡石垣は亀山の岩盤を利用して、これを覆うように構築している。岩盤より上は版築された盛土であり、下部はこれを掘削して石垣を築き、これらと石垣の間には栗石が敷き詰められている。石垣は小面を前面に控えの長さが0.8~1.2mある。築石部の石垣土層断面調査では地山を標高40.7m、岩盤を40.2mの地点で検出した。この栗石幅は、天端石からグリハ積みまでは1.4~2.5m、グリハ積み下部から地山までは約3m、地山より下部の岩盤部分は60~80cmと狭くなる。グリハ積みのすぐ下部で、部分的に栗石幅が約5mまで広くなるところがある。これは石垣内の盛土層の排水処理を目的としたものと思われる。

また、この場所で築造初期の造成にあたる盛土層の土留めを目的とした石垣を検出した。この長さは約4mあり外側に湾曲している。高さ約0.6~2.1m、安山岩を用いた野面積みで、偏平な石を随所に用いている。栗石幅は広いところで80cmある。

8. まとめ

今回の調査は、石垣内の栗石幅を確認し、亀山の岩盤も検出した。また平成10年度調査ではこの場所で史跡石垣内から石垣を検出しているが、さらにその内からこの場所での築造初期の盛土の土留めを目的とした古い石垣も確認した。平成10年度の報告で角石・角脇石の隙間調整に用いられた楔状のカネは、敷金であることも分かった。

(東)



第1図 遺跡の位置（「丸亀」）



第2図 盛土の排水処理を目的とした栗石



第3図 盛土の土留め石垣

たむらはいじ 田村廃寺（田村遺跡）

1. 所在地 丸亀市田村町1745-1
2. 調査主体 丸亀市教育委員会文化課
3. 調査期間 平成11年11月11日から
平成12年2月23日まで
4. 調査面積 約700m²
5. 調査担当者 東信男
6. 調査の原因 ㈱百十四銀行支店建設
7. 調査結果の概要

調査地は平成9年度の試掘調査により、田村廃寺に関連する遺構が確認されたところである。今回は工事予定地の東西約40m×南北約17mの範囲を調査した。

遺物は、須恵器、土師器、弥生土器、瓦、鷦尾、硯、蛸壺、管玉等が出土している。

寺院関連遺構は、ほぼ東西方向にある堀跡の基底部と数棟の建物跡を検出した。堀跡の両側は溝であり、白鳳期から平安時代までの古瓦を包含する。この最下層から8世紀代の須恵器の杯が出土している。またこの堀跡を横断する瓦の暗渠も検出した。平瓦と丸瓦を用いたもので、平瓦の凹部を上に5枚並べ、その上に丸瓦の凸部を上に覆い被せ土管状にしたものである。これに用いられた平瓦は1枚造りである。この堀跡に伴う遺構として、南側ではほぼ同一方向にある建物跡を数棟検出した。主な建物は東西方向を平行とし、柱跡の掘り方が約60~80cmの方形である。東側のものは3度の立替えが見られ、柱間が約2~2.6mある。

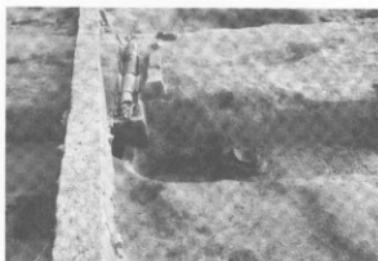
寺院以前の遺構は、周濠も含めた径が約17mの円墳がある。周濠底部の出土遺物から7世紀前半の須恵器の甕や平瓶等が出土する。また、弥生時代後期の土器片も出土している。

8.まとめ

当該地は弥生時代後期の遺構があり、古墳時代には円墳が築かれる。寺院はこの古墳を削平した上に建立されている。堀跡は築地堀と考えられ、8世紀以降の寺域の北限と推定される。寺院に関連する遺物は主に8世紀代のものが多く、調査地の西側は10世紀頃に再度造成されている。また奈良時代の瓦は善通寺、白鳳期の瓦は法勅寺出土瓦と同範のものが出土している。（東）



第2図 建物跡



第3図 築地堀と瓦の暗渠

たるみみょうけんいせき 垂水妙見遺跡

1. 所在地 丸亀市垂水町1594
2. 調査主体 丸亀市教育委員会文化課
3. 調査期間 平成12年3月6日～3月23日
4. 調査面積 約50m²
5. 調査担当者 東信男
6. 調査の原因 遺跡確認調査
7. 調査結果の概要

垂水小学校から南約250mに位置する水路は、昭和52年度の改良工事のときに5世紀中頃（『瀬戸内海民俗資料館年報代5号』・『垂水町史』）の須恵器の大甕を含む多くの土器片が出土した場所である。今回、この水路東隣の水田で、南北48m×東西1.2mの細長いトレンチを設定し、遺構の有無を確認した。第1図遺跡の位置耕作土から約50cmで遺構面に達し、竪穴住居1棟・溝状遺構5本、土こうを検出した。竪穴住居跡は方形のプランを持つ。遺物の出土はなかった。溝状遺構は、5本のうち北側2本と南端のものが磁北を向き、中央部の2本は約1.2m離れ並列している。北側2本の溝状遺構は古代から中世の遺構と思われ、北端のものは置き窓が、もう1本は7世紀の須恵器に混じり、14世紀の小皿が出土している。南端のものは上流からの流れ込みであるが出土遺物の量が最も多い。弥生時代後期の土器と5世紀後半、7世紀代の須恵器が出土している。中央部の並列する溝から遺物は出土していない。

8.まとめ

今回の調査は、竪穴住居や溝状遺構等の遺構があることや、弥生時代後期から中世までの遺物が出土する。周知の遺跡として確定できたが、調査範囲が限られたため遺跡の範囲・性格を把握しきれなかった。しかしながら、周辺の地形や周囲の畑地などに遺物が散布していることからみると弥生時代後期から古墳時代の集落が広範囲に所在すると思われる。

(東)



第1図 遺跡の位置（「普通寺」）



第2図 竪穴住居跡



第3図 南端の溝条遺構

むかい ばら い せき 向原遺跡

1. 所在地 綾歌郡綾南町大字陶字向原
2. 調査主体 綾南町教育委員会
3. 調査期間 平成12年2月10日
4. 調査面積 約120m²
5. 調査担当者 片桐節子
6. 調査の原因 町道の新設
7. 調査結果の概要

調査地は、南に位置する鞍掛山から張り出した丘陵上に位置しており、東には谷が迫る。北には町立綾南中学校があり、そのグラウンドの北は急激に低くなっている。今回、綾南部地区の圃場整備事業に伴い、町道が新設されることによって試掘調査の必要が生じたもので結果、表土下で土坑・第1図遺跡の位置（「滝宮」）柱穴・溝等の遺構を検出し、弥生土器や石鎌・柱状片刃石斧等の遺物が出土したため、遺跡の存在が明らかとなった。これを受けて関係機関の協議の結果、発掘調査が実施されることとなったのである。調査範囲が狭いため、遺構は調査区外に延びるものが多いようであるが、溝では弧を描くものが認められる。なお、鎌田郷土博物館に「陶村向原出土」の石鎌6点が所蔵されており、出土状況等の詳細は不明であるが本調査区近在のものであると思われる。

8.まとめ

今回の試掘調査の結果、遺跡の存在が明らかとなった。出土遺物は少量であるものの、弥生時代中期後半頃のものと考えられる。周辺では平成8年に調査が実施された下大橋・定兼遺跡や平成11年に実施された陶畠遺跡等が同じもしくは近い時期の集落址と考えられ、特に、下大橋・定兼遺跡は直線距離にして約500m、丘陵下を流れる富川の対岸に位置しており、これらの遺跡との関わりも注目される。

(片桐)



第1図 遺跡の位置（「滝宮」）



第2図 遺構検出状況



第3図 出土遺物・柱状片刃石斧

田所深池遺跡

1. 所在地 綾南町陶6802-1
2. 調査主体 綾南町教育委員会
3. 調査期間 平成11年11月22日～12月20日
4. 調査面積 約60m²
5. 調査担当者 松本考古学研究所松本豊胤
6. 調査の原因 県営ため池等整備事業に伴う事前調査
7. 調査結果の概要

須恵器窯の本体は深池の南寄りの西岸にあり、既に池水の浸食によって燃焼室の一部が破壊されて露出していた。西岸の水田から、ため池に向かって傾斜する斜面の表土を除去すると、窯の本体が検出された。

窯は登窯と平窯が重複しており、調査によって平窯が廃棄されたあとその上に登窯が構築されていることが明らかになった。平窯は焼成室の床面は最大幅約90cm、長さ約1.5mで、3条の有牀式になり、しかも20°-25°の傾斜をもつ。燃焼室は分焰孔から60cm程を残して破壊されていた。焼成室からは約1240点の杯及びその破片が検出された。ただし高台をもつ輪が1点だけ含まれていた。登窯は平窯の床面から30cm程の高さに床面を持ち、残存する全長水平長2.05m、幅は約1mと推定される。床面は緩やかに中央部が窪み、傾斜角度は25°-28°を示す。残存した床面からは甕の破片が検出されていることから、登窯では甕が焼成されていたことを物語っている。なお窯の北側と南側には浅い溝があり、甕をはじめ杯の破片が検出されている。

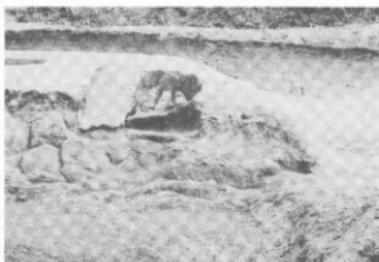
8. まとめ

造構は平窯と登窯が重複していることが注目される。平窯は焼成室と燃焼室が隔壁によって区分されている上に、3条の牀をそなえているところからすると平窯の範疇に入れることが出来るが、焼成室の床面が傾斜していることからすると、登窯の性格もあわせもつものとして注目される。さらにはて平窯に北半分を重ねるような形で登窯が構築されている点もまた注目される。時期的には綾南町の西村1、2号窯との関連から、その平行期かまたはやや先行する11世紀中頃に位置づけられるものと思われる。

(松本)



第1図 遺跡の位置（「瀧宮」）



第2図 登窯と平窯



第3図 平窯

つるが峯古墳

1. 所在地 坂出市加茂町鷺ノ口
6119他
2. 調査主体 坂出市教育委員会
3. 調査期間 平成11年5月20日～7月19日
4. 調査面積 約64m²
5. 調査担当者 坂出市教育委員会
今井和彦

6. 調査の原因 採土事業

7. 調査結果の概要

鶴ヶ峯古墳は、坂出市の東に位置する蓮光寺山の西に派生する丘陵の鶴ヶ峯南尾根上、標高156m付近に位置する。この尾根上から西側の採土事業の計画があり、遺跡の照会が提出されたことから、当該古墳の範囲確認調査を実施した。ところで、調査期間中に他所の緊急確認調査の必要が生じ、調査は事業照会地区を中心としてとどめ、主体部の位置等の確認をした時点で終了のこととなった。

調査は墳丘頂上部に十字に幅2mのトレーニングを設定し、傾斜変換点まで掘削を行い精査を実施した。西トレーニングでは頂上部より西約4～4.5m付近で安山岩の小礫が幾つか並ぶことが確認された。南トレーニングは伐開当初から露出していた柱状花崗岩の並びを含めて精査をしたところ、西トレーニングに円弧を描きながら消滅していた。更に南の傾斜変換点でも板状安山岩が検出されたが、斜めに埋没するなど当初からの位置を保っていないものと思われた。東トレーニングでも花崗岩が幾つか並ぶことや、北トレーニングの小礫の散在する地点を含めて、半径約5mで円弧を描くことから10m程の円墳と推察された。保存範囲は南に散在する板状安山岩塊も含めて半径約8mを取ることとし、開発計画からも十分離れていることから問題ないものとした。

8.まとめ

調査は他所の緊急調査のため、全面にわたる詳細な内容とはならなかったが、頂上表土の精査から主体部の天井石が露出しており、更に北に箱式石棺の蓋が検出されたことから、2棺の主体部をもつと推察された。古墳壇裾は花崗岩塊を壇裾としてみましたが、西部に平坦面があり、北部も緩やかな平坦面があるものの、明確な盛土の裾部とは認められなかったことから、遺跡の範囲から外すこととした。

(今井)



第1図 遺跡の位置（「白峰寺」）



第2図 鶴ヶ峯古墳全景



第3図 墳裾花崗岩塊

さぬきこくふあとかいほうじいせき
讃岐国府跡（開法寺遺跡）

1. 所在地 坂出市府中町字本村
5013-3
2. 調査主体 坂出市教育委員会
3. 調査期間 平成11年7月21日～9月28日
4. 調査面積 約125m²
5. 調査担当者 坂出市教育委員会
今井和彦
6. 調査の原因 遺跡確認調査
7. 調査結果の概要
讃岐国府域の南西角には昭和45年に発見された白鳳時代の古代寺院、開法寺塔跡が位置している。今回、この塔跡北約70mの水田中にて個人住宅の建設計画が予定され、当該地が開法寺の伽藍推定範囲の外に位置することや、水田が一段低くなっていることから、遺構なども残存していないものと推察された。

ところが、開発予定地に沿って幅2mのトレーナーを設定して掘削したところ、表土下にて安山岩や花崗岩の石が並びはじめた。また包含層の中には瓦片が多く含まれていたことから、讃岐国府の範囲に位置するものの、むしろ開法寺塔跡関連の遺構の可能性が高まった。

石の並びに沿ってトレーナーを配したこと、全体で20個の礎石が発見され、4箇所で抜き取り跡を検出した。南北は3間で中が5m程の間隔で広くなり、両端は2.5m程の間口となっていた。東西方向の礎石は2.6m間隔で6間が検出され、さらに東西に延びる構造の建物と推察された。周辺からは白鳳から平安後期頃の瓦片が出土したほか、礎石掘方内に平安後期の平瓦が含まれていたことから、礎石建物はこの頃の建造と考えられる。また、東端では礎石検出面の更に下に大きめのピットが検出されたことから、礎石面の下に古い遺構が存在する可能性も推察される。

8.まとめ
今回の礎石群は開法寺塔跡の北約60～70m付近で検出された建物跡であり、開法寺塔跡から推察された伽藍配置の外に位置していることから、建物の性格として僧坊等が推察されるが、面的に精査を行っていないため、礎石以外の遺構については礎石の南に沿って溝状遺構が平行に延びること以外、遺構の詳細は不明である。
(今井)



第1図 遺跡の位置（「白峰寺」）



第2図 磚石検出状況



第3図 磚石横出土土器

さぬき國府跡

1. 所在地 坂出市府中町字本村
5061-2
2. 調査主体 坂出市教育委員会
3. 調査期間 平成11年11月11日～12月10日
4. 調査面積 約27.5m²
5. 調査担当者 坂出市教育委員会
今井和彦
6. 調査の原因 遺跡確認調査
7. 調査結果の概要

讃岐国府跡の石碑のすぐ東に位置する当該調査区は、平成7年に近隣で個人住宅の建設に伴う調査を実施した地区の西に位置する。

調査では不定型の土坑内に土器集中が検出された他、調査区北部に石敷きの土坑墓が発見された。そのほか、調査区内にピットが幾つか検出されたが、明確な建物にはなっていない。ピットの並びから南北方向に並ぶ可能性が高い。また不定型土坑は中世以降の南北の溝状遺構に切られており、溝自体も浅く途中で消滅する。

不定型土坑については、土師質壺、楕、小型器台が一括廃棄されており、10世紀末頃と考えられる。また北部の土坑墓は単独で検出され、後世に削平を受けていたが、人骨と遺物が検出された。人骨は膝を折り曲げて胸付近に手を置く状態と推定されるが、殆ど土となっており判然としない。胸から腹部にかけて土師質小皿が5点と、壺2点、輸入青磁楕1点が検出された他、鉄製品の一部で小刀と推察されるものも発見されている。遺物は12世紀頃のものと考えられる。南北の溝状遺構からは上鍋の脚部や体部が多く出土し15世紀以降のものと推察される。

8.まとめ

今回の調査区は国府の石碑の直ぐ東に位置していたことから、国府関係の遺構の検出も考えられたが、周辺の調査と同様の時期の遺構が広がっており、創建期の国府関連遺構と判断できるものは検出されていない。10世紀頃の不定型土坑と12世紀の土坑墓は国府が機能していた時期の遺構と考えられるが、土坑墓は単独遺構で、周辺の西北部に広がる可能性もある。(今井)



第1図 遺跡の位置（「白峰寺」）



第2図 不定期土坑状況



第3図 土坑墓検出状況

よこたてやまきょうづかこふん 横立山経塚古墳

1. 所在地 高松市生島町
2. 調査主体 高松市教育委員会
3. 調査期間 平成11年8月17日～
平成11年12月1日 4.84m²
5. 調査担当者 山元敏裕
6. 調査の原因 墳丘一部損壊による範囲確認

7. 調査結果の概要

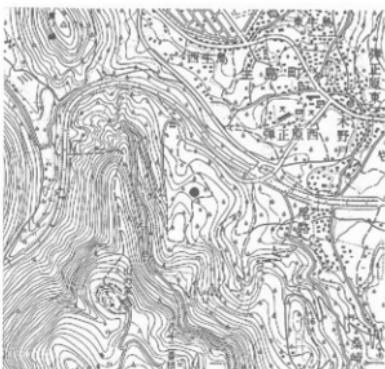
後円部に存在した祠の新設にともない墳丘が一部損壊したため、今後、埋蔵文化財として正確な情報を周知するには、古墳の範囲を確認する必要があることから、前方部から後円部の西側部分について3箇所のトレンチを設定し、古墳の残存状況を確認した。

調査の結果、古墳の西側部分の調査であったが各トレンチ墳丘裾を確認し、古墳の規模がほぼ確定した。墳丘裾は大振りの積石を使用し、墳裾を明確にしている。従来、墳丘東側について大きく改変を受けていると考えられていた前方部は、墳丘上に盛られていた石を除去した結果、緩くバチ形に開く墳丘形態であることが判明した他、前方部墳丘に入れたトレンチの状況から前方部は盛上で作られていることも判明した。

各トレンチから円筒埴輪片が出土したが、原位置を保っているものは認められなかった。後円部盗掘時に前方部へ盛られたと考えられる積石からはコンテナ3箱程度の埴輪片が出土した。くびれ部、後円部に設定したトレンチの埴輪出土状況から、円筒埴輪は後円部墳頂のみ置かれていた可能性が極めて高いと考えられる。

8. まとめ

確認調査の結果、従来の当古墳に関する見解をあらためて検証したことと、墳丘形態、円筒埴輪の配置状況等が新たに判明し、古墳時代前期末の古墳を考える上で貴重な資料を提供できたものと考えられる。調査成果の詳細については『高松市内遺跡発掘調査概報－平成11年度国庫補助事業－』2000年3月を参照されたい。
(山元)



第1図 遺跡の位置（「五色台」）



第2図 前方部積石検出状況



第3図 くびれ部積石検出状況

こうざいみなみにしうちいせき
香西南西打遺跡

1. 所在地 高松市香西南町
2. 調査主体 高松市教育委員会
3. 調査期間 平成11年5月31日～
平成11年6月15日
平成11年12月14日～
平成12年1月14日
4. 調査面積 約180m²、190m²
5. 調査担当者 小川 賢
6. 調査の原因 香西東臨港線道路改良工事
7. 調査結果の概要

平成9年度からの調査で、未調査となっていた2箇所の旧宅地部分を本年度で行った。

北及び南の調査区において、現在の宅地盛土及び耕作土、黃灰色土が堆積した後の黃色粘土層を遺構面とした。両調査区において、前年度までの調査で広範に確認されている粘土採掘坑が調査区のほぼ全面において検出された。粘土採掘坑は埋土を褐灰色～黒褐色土に地山の黃色粘土をブロック状に含むもので、須恵器、土師器壺等が出土している。

南側の調査区では、想定坪界上において南北方向の溝跡を前年度までの調査に引き続き検出した。出土遺物は、土師器皿、壺等である。その他前年度に行った南部の調査箇所に続き、K-Ah降灰以前の堆積物である黃色粘土層と上記の遺構等からナイフ形石器をはじめ旧石器時代に属するサヌカイト片等が出土している。

8.まとめ

本年度で香西東臨港線道路改良工事に伴う調査は終了した。調査の結果、遺跡の南西部について、旧石器時代の文化層が広がるものと考えられる。古代末～中世初頭においては、条里地割に伴う溝跡を確認したが、柱穴等が見られないこと、プランツ・オ・パールを含んだ土壤層を広範に確認したことから、主に水田として利用されていたと考えられる。さらに、その前後ににおいて多数の粘土採取跡を確認していることから、粘土採取がこの地で行われており、胎土分析から推測するに近辺で壺、羽釜等大型品の土器生産を行っていた可能性がある。（小川）



第1図 遺跡の位置（「高松北部・高松南部・五色台・白峰山」）



第2図 北部調査区 粘土採掘坑



第3図 南部調査区 石器出土状況